



茨城県

茨城県景気ウォッチャー調査

(平成20年6月調査分)

《景気の現状判断DI》

	平成20年3月	平成20年6月	前回調査比
茨城県	36.5	30.2	6.3
県北地域	34.6	32.5	2.1
県央地域	36.4	30.5	5.9
鹿行地域	34.3	25.4	8.9
県南地域	41.1	34.2	6.9
県西地域	36.0	28.4	7.6

《景気の先行き判断DI》

	平成20年3月	平成20年6月	前回調査比
茨城県	40.4	31.3	9.1
県北地域	40.0	34.6	5.4
県央地域	39.9	30.9	9.0
鹿行地域	41.5	27.1	14.4
県南地域	36.9	29.6	7.3
県西地域	43.6	34.3	9.3

平成20年7月

茨城県企画部統計課

目 次

調査の概要	1
調査結果の概要	3
1 全県の動向	3
(1) 景気の現状判断D I	3
(2) 景気の先行き判断D I	4
2 地域別の動向	5
(1) 景気の現状判断D I	5
(2) 景気の先行き判断D I	7
3 回答率	10
景気の判断コメント	11
1 景気の現状判断コメント	11
2 景気の先行き判断コメント	21
3 その他の意見	31

問い合わせ先

統計課企画分析グループ TEL:029-301-2642

ホームページアドレス

<http://www.pref.ibaraki.jp/tokei/betu/bukka/watch/index.html>

調査の概要

1 調査の目的

経済の第一線で働いている人々から、景気の現状や景気の先行き判断に関する生の情報を地域ごとに把握するとともに迅速に公表することで、県や市町村のきめ細かな施策立案や経済界におけるタイムリーな景気判断の基礎資料とする。

2 調査の範囲

(1)対象地域

県下全域を対象とする。また、全域を県北、県央、鹿行、県南及び県西の5地域に区分する。なお、各地域に含まれる市及び郡は以下のとおりである。 ※平成20年6月30日現在

地域	市及び郡
県北地域	日立市、常陸太田市、高萩市、北茨城市、ひたちなか市、常陸大宮市、那珂市、那珂郡、久慈郡
県央地域	水戸市、笠間市、小美玉市、東茨城郡
鹿行地域	鹿嶋市、潮来市、神栖市、行方市、鉾田市
県南地域	土浦市、石岡市、龍ヶ崎市、取手市、牛久市、つくば市、守谷市、稲敷市、かすみがうら市、つくばみらい市、稲敷郡、北相馬郡
県西地域	古河市、結城市、下妻市、常総市、筑西市、坂東市、桜川市、結城郡、猿島郡

(2)調査客体

家計動向、企業動向及び雇用動向を敏感に反映する業種に従事する者から、(1)で示した地域ごとに60名、計300名を調査客体とする。

【地域別・業種別調査客体数】

業種名	具	例	県北地域	県央地域	鹿行地域	県南地域	県西地域	合計
家計関連	小売業、飲食業、サービス業、住宅関連等		38	39	38	37	36	188
企業関連	製造業（食料品、一般機械器具等）、建設業、金融業		17	16	17	18	19	87
雇用関連	人材派遣業、公共職業安定所、求人広告業等		5	5	5	5	5	25
	計		60	60	60	60	60	300

3 調査事項

- (1) 景気の現状に対する判断（方向性）
- (2) (1) のコメント（理由）
- (3) 景気の先行きに対する判断（方向性）
- (4) (3) のコメント（理由）
- (5) その他景気に関する意見（自由回答）

4 調査月及び調査期間

調査月は3月、6月、9月及び12月の年4回である。平成20年6月調査の調査期間は平成20年6月2日から平成20年6月30日である。

5 利用上の注意

- (1) 景気動向指数 (D I) は景気の方角性を判断するものであり、景気の水準を判断するものではない。
- (2) ウォッチャーの回答構成比は、小数第1位までの表示とし、表示単位未満の端数は四捨五入した。したがって、構成比の合計は100%とならない場合がある。

景気動向指数(DI)について

- 1 景気の現状及び景気の先行きに対する判断の回答区分は、以下のとおり5段階としているが、それぞれに点数化し、これらを各回答区分の構成比 (%) に乗じて、景気動向指数 (D I) を算出している。

回答区分	良くなって いる	やや良 くなっている	変わらない	やや悪 くなっている	悪くなって いる
点数	+1	+0.75	+0.5	+0.25	0

2 具体例

回答者数100名で、回答内訳が以下の場合。

良くなって いる	やや良 くなっている	変わらない	やや悪 くなっている	悪くなって いる
15名	27名	25名	11名	22名

それぞれの回答構成比は

良くなって いる	やや良 くなっている	変わらない	やや悪 くなっている	悪くなって いる
15.0%	27.0%	25.0%	11.0%	22.0%

したがって、DI値は、

$$(1 \times 15.0) + (0.75 \times 27.0) + (0.5 \times 25.0) + (0.25 \times 11.0) + (0 \times 22.0) = 50.5 \text{ となる。}$$

この値は、全員が「変わらない」と回答した場合は、 $(0.5 \times 100) = 50$ となることから、50を上回っているときは、景気の上昇局面にあり、また50を下回っているときは、景気の下降局面にあるといえる。

調査結果の概要

1 全県の動向

(1) 景気の現状判断DI

3か月前と比較した景気の現状判断DIは3月調査分より6.3ポイント低下し、30.2となった。「良くなっている」の回答構成比がわずかに増加したものの「やや良くなっている」の回答構成比が減少し、「やや悪くなっている」及び「悪くなっている」の回答構成比が増加したため、横這いを表す50を下回った。また、これは平成14年12月の調査開始以来最も低い値である。業種別にみると、家計動向関連、企業動向関連及び雇用関連の全てのDIが3月調査分を下回った。

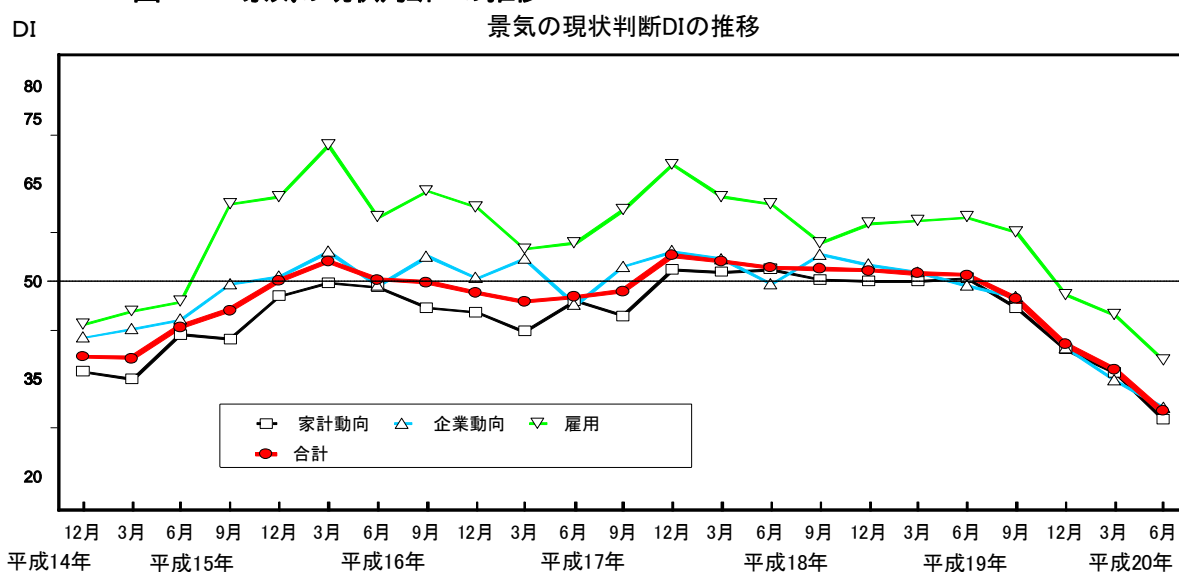
表1-1 景気の現状判断DI

分野	調査日時				
	平成19年 6月	平成19年 9月	平成19年 12月	平成20年 3月	平成20年 6月
合計	51.0	47.4	40.4	36.5	30.2
家計動向関連	50.6	46.0	39.7	36.1	28.9
小売関連	51.1	48.6	38.4	35.8	27.7
飲食関連	47.5	45.0	37.5	32.1	26.2
サービス関連	50.3	42.5	40.6	35.8	29.7
住宅関連	55.6	58.3	47.2	50.0	38.9
企業動向関連	49.4	47.7	39.8	34.9	30.7
農林水産業	50.0	56.3	37.5	43.8	43.8
製造業	50.0	46.3	38.3	35.3	30.2
非製造業	48.4	47.7	42.5	32.0	28.2
雇用関連	60.0	57.6	48.0	45.0	38.0

表1-2 回答構成比

	良くなっている	やや良くなっている	変わらない	やや悪くなっている	悪くなっている
平成19年 6月	2.1%	25.0%	51.0%	18.8%	3.1%
平成19年 9月	3.8%	16.8%	49.1%	25.8%	4.5%
平成19年12月	1.4%	17.2%	35.1%	34.4%	11.9%
平成20年 3月	0.3%	8.2%	40.1%	39.8%	11.6%
平成20年 6月	0.7%	4.4%	30.6%	43.5%	20.7%

図1-1 景気の現状判断DIの推移



(2) 景気の先行き判断DI

3か月先の景気の先行き判断DIは3月調査分より9.1ポイント低下し、31.3となった。「良くなっている」の回答構成比がわずかに増加したものの「やや良くなっている」の回答構成比が減少し、「やや悪くなっている」及び「悪くなっている」の回答構成比が増加したため、横這いを表す50を3期連続で下回った。また、これは平成14年12月の調査開始以来最も低い値である。業種別にみると、家計動向関連、企業動向関連及び雇用関連の全てのDIが3月調査分を下回った。

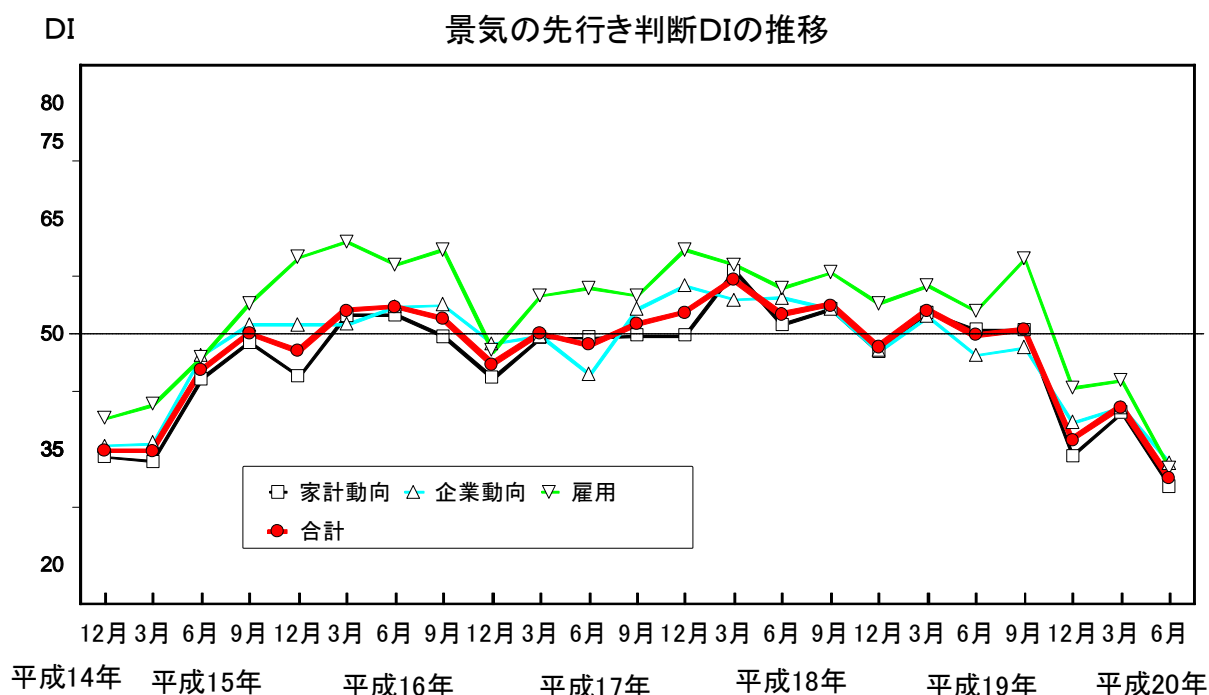
表1 - 3 景気の先行き判断DI

分野	調査日時				
	平成19年 6月	平成19年 9月	平成19年 12月	平成20年 3月	平成20年 6月
合計	49.9	50.6	36.2	40.4	31.3
家計動向関連	50.7	50.6	34.2	39.9	30.2
小売関連	48.6	47.2	35.2	36.5	26.7
飲食関連	45.0	55.0	36.3	36.9	28.6
サービス関連	54.1	52.5	31.2	43.0	32.2
住宅関連	50.0	50.0	47.2	47.2	44.4
企業動向関連	47.3	48.3	38.6	40.4	33.3
農林水産業	50.0	53.1	40.6	53.1	25.0
製造業	45.5	46.8	37.8	39.7	33.9
非製造業	49.2	49.2	39.2	38.3	34.7
雇用関連	53.0	59.8	43.0	44.0	32.6

表1 - 4 回答構成比

	良くなっている	やや良くなっている	変わらない	やや悪くなっている	悪くなっている
平成19年 6月	2.1%	21.5%	55.9%	14.9%	5.6%
平成19年 9月	3.4%	23.4%	49.5%	19.6%	4.1%
平成19年12月	0.0%	8.4%	42.5%	34.7%	14.4%
平成20年 3月	0.3%	11.9%	43.9%	36.7%	7.1%
平成20年 6月	1.4%	5.4%	30.3%	42.9%	20.1%

図1 - 2 景気の先行き判断DIの推移



2 地域別の動向

(1) 景気の現状判断DI

県北地域

3か月前と比較した景気の現状判断DIは3月調査分より2.1ポイント低下し、32.5となった。横這いを表す50を5期連続で下回った。業種別にみると、家計動向関連DIは3月調査分を上回ったものの、企業動向関連DI及び雇用関連DIは3月調査分を下回った。

表2-1 景気の現状判断DI

分野	調査日時				
	平成19年 6月	平成19年 9月	平成19年 12月	平成20年 3月	平成20年 6月
合計	48.2	47.5	40.9	34.6	32.5
家計動向関連	45.8	44.7	38.6	30.9	32.6
企業動向関連	50.0	51.5	44.1	38.2	30.9
雇用関連	60.0	55.0	45.0	50.0	37.5

表2-2 回答構成比

	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている
平成19年 6月	0.0%	15.8%	63.2%	19.3%	1.8%
平成19年 9月	3.3%	20.0%	46.7%	23.3%	6.7%
平成19年12月	0.0%	18.2%	41.8%	25.5%	14.5%
平成20年 3月	0.0%	5.0%	43.3%	36.7%	15.0%
平成20年 6月	0.0%	5.3%	36.8%	40.4%	17.5%

県央地域

3か月前と比較した景気の現状判断DIは30.5となった。3月調査分より5.9ポイント低下し、横這いを表す50を4期連続で下回った。また、これは平成14年12月の調査開始以来最も低い値である。業種別にみると、雇用関連DIは横這いだったが、家計動向関連DI及び企業動向関連DIは3月調査分を下回った。

表2-3 景気の現状判断DI

分野	調査日時				
	平成19年 6月	平成19年 9月	平成19年 12月	平成20年 3月	平成20年 6月
合計	50.9	45.3	35.9	36.4	30.5
家計動向関連	51.3	45.9	34.7	34.7	28.9
企業動向関連	48.3	42.2	33.9	37.5	29.7
雇用関連	55.0	50.0	50.0	45.0	45.0

表2-4 回答構成比

	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている
平成19年 6月	1.7%	20.7%	58.6%	17.2%	1.7%
平成19年 9月	1.7%	10.3%	58.6%	25.9%	3.4%
平成19年12月	0.0%	9.1%	36.4%	43.6%	10.9%
平成20年 3月	0.0%	7.0%	38.6%	47.4%	7.0%
平成20年 6月	0.0%	3.4%	28.8%	54.2%	13.6%

鹿行地域

3か月前と比較した景気の現状判断D Iは25.4となった。3月調査分より8.9ポイント低下し、横這いを表す50を3期連続で下回った。また、これは平成14年12月の調査開始以来最も低い値である。さらに、現状判断D Iは全県を通じて最も低かった。業種別にみると、雇用関連D Iは横這いだったが、家計動向関連D I及び企業動向関連D IのD Iは3月調査分を下回った。

表2 - 5 景気の現状判断D I

分野	調査日時	平成19年 6月	平成19年 9月	平成19年 12月	平成20年 3月	平成20年 6月
合計		51.7	50.8	43.3	34.3	25.4
	家計動向関連	49.3	48.0	40.1	34.5	22.3
	企業動向関連	51.5	54.4	50.0	33.8	29.4
	雇用関連	70.0	60.0	45.0	35.0	35.0

表2 - 6 回答構成比

	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている
平成19年 6月	0.0%	34.5%	41.4%	20.7%	3.4%
平成19年 9月	3.4%	22.0%	50.8%	22.0%	1.7%
平成19年12月	3.3%	20.0%	35.0%	30.0%	11.7%
平成20年 3月	0.0%	3.4%	47.5%	32.2%	16.9%
平成20年 6月	0.0%	1.7%	28.8%	39.0%	30.5%

県南地域

3か月前と比較した景気の現状判断D Iは34.2となった。3月調査分より6.9ポイント低下し、横這いを表す50を3期連続で下回った。また、これは平成14年12月の調査開始以来最も低い値であるものの、現状判断D Iは全県を通じて最も高かった。業種別にみると、家計動向関連、企業動向関連及び雇用関連の全てのD Iが3月調査分を下回った。

表2 - 7 景気の現状判断D I

分野	調査日時	平成19年 6月	平成19年 9月	平成19年 12月	平成20年 3月	平成20年 6月
合計		53.5	50.0	43.6	41.1	34.2
	家計動向関連	54.3	53.0	45.6	46.5	37.2
	企業動向関連	48.5	40.3	35.9	26.4	25.0
	雇用関連	65.0	68.8	55.0	55.0	45.0

表2 - 8 回答構成比

	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている
平成19年 6月	7.0%	28.1%	42.1%	17.5%	5.3%
平成19年 9月	7.3%	18.2%	43.6%	29.1%	1.8%
平成19年12月	3.6%	25.5%	27.3%	29.1%	14.5%
平成20年 3月	1.7%	11.9%	40.7%	40.7%	5.1%
平成20年 6月	1.7%	8.3%	33.3%	38.3%	18.3%

県西地域

3か月前と比較した景気の現状判断D Iは28.4となった。3月調査分より7.6ポイント低下し、横這いを表す50を4期連続で下回った。また、これは平成14年12月の調査開始以来最も低い値である。業種別にみると、家計動向関連、企業動向関連及び雇用関連の全てのD Iが3月調査分を下回った。

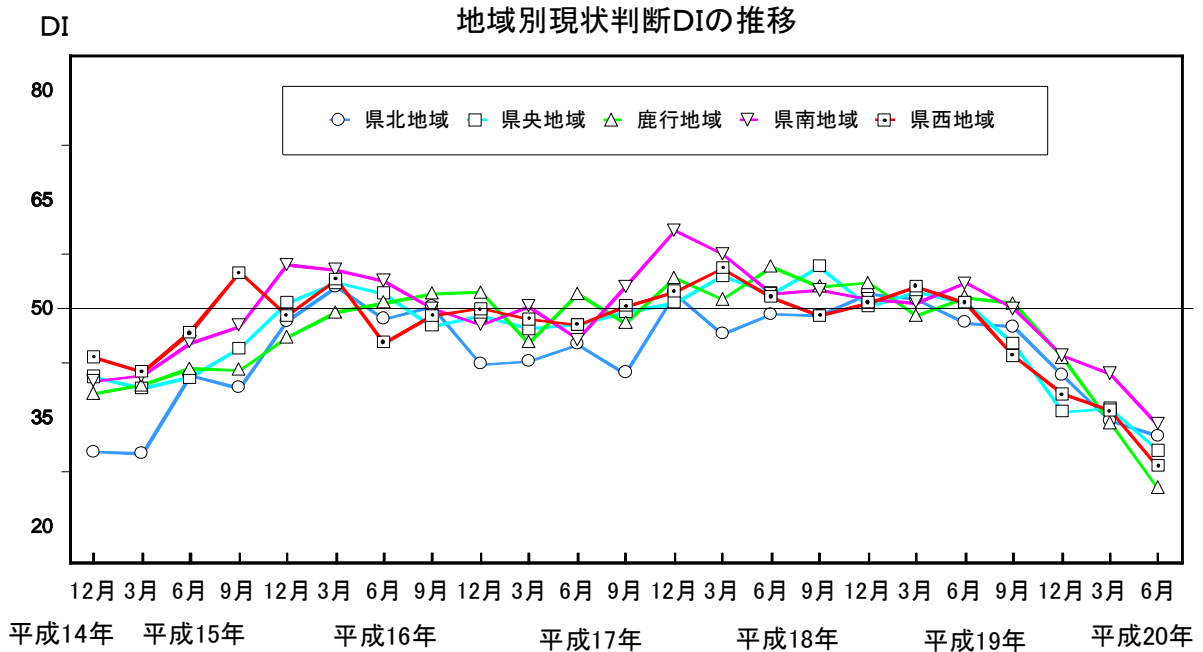
表2 - 9 景気の現状判断DI

分野	調査日時	平成19年 6月	平成19年 9月	平成19年 12月	平成20年 3月	平成20年 6月
合計		50.9	43.6	38.3	36.0	28.4
家計動向関連		52.2	38.9	39.6	34.0	23.6
企業動向関連		48.7	50.0	34.2	38.9	38.2
雇用関連		50.0	56.3	45.0	40.0	25.0

表2 - 10 回答構成比

	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている
平成19年 6月	1.7%	25.9%	50.0%	19.0%	3.4%
平成19年 9月	3.4%	13.6%	45.8%	28.8%	8.5%
平成19年12月	0.0%	13.3%	35.0%	43.3%	8.3%
平成20年 3月	0.0%	13.6%	30.5%	42.4%	13.6%
平成20年 6月	1.7%	3.4%	25.4%	45.8%	23.7%

図2 - 1 地域別現状判断DIの推移



(2) 景気の先行き判断DI

県北地域

3か月先の景気の先行き判断DIは**34.6**となった。3月調査分より**5.4**ポイント低下し、横這いを表す**50**を3期連続で下回った。また、先行き判断DIは全县を通じて最も高かった。業種別にみると、雇用関連DIは3月調査分を上回ったものの、家計動向関連DI及び企業動向関連DIは3月調査分を下回った。

表2 - 11 景気の先行き判断DI

分野	調査日時	平成19年 6月	平成19年 9月	平成19年 12月	平成20年 3月	平成20年 6月
合計		52.2	53.8	34.5	40.0	34.6
家計動向関連		52.1	53.9	34.8	37.5	31.9
企業動向関連		51.6	52.9	32.4	47.1	39.7
雇用関連		55.0	55.0	40.0	35.0	37.5

表2 - 12 回答構成比

	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている
平成19年 6月	1.8%	22.8%	59.6%	14.0%	1.8%
平成19年 9月	1.7%	30.0%	53.3%	11.7%	3.3%
平成19年12月	0.0%	3.6%	43.6%	40.0%	12.7%
平成20年 3月	0.0%	15.0%	35.0%	45.0%	5.0%
平成20年 6月	1.8%	5.3%	42.1%	31.6%	19.3%

県央地域

3か月先の景気の先行き判断DIは30.9となった。3月調査分より9.0ポイント低下し、横這いを表す50を4期連続で下回った。また、これは平成14年12月の調査開始以来最も低い値である。業種別にみると、家計動向関連、企業動向関連及び雇用関連の全てのDIが3月調査分を下回った。

表2 - 13 景気の先行き判断DI

分野	調査日時	平成19年 6月	平成19年 9月	平成19年 12月	平成20年 3月	平成20年 6月
合計		50.9	47.0	34.5	39.9	30.9
	家計動向関連	53.3	44.6	29.9	39.6	30.9
	企業動向関連	43.3	45.3	42.9	39.1	29.7
	雇用関連	55.0	70.0	45.0	45.0	35.0

表2 - 14 回答構成比

	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている
平成19年 6月	3.4%	15.5%	65.5%	12.1%	3.4%
平成19年 9月	3.4%	17.2%	46.6%	29.3%	3.4%
平成19年12月	0.0%	10.9%	34.5%	36.4%	18.2%
平成20年 3月	0.0%	8.8%	50.9%	31.6%	8.8%
平成20年 6月	0.0%	8.5%	25.4%	47.5%	18.6%

鹿行地域

3か月先の景気の先行き判断DIは27.1となった。3月調査分より14.4ポイント低下し、横這いを表す50を3期連続で下回った。また、これは平成14年12月の調査開始以来最も低い値である。さらに、先行き判断DIは全県を通じて最も低かった。業種別にみると、家計動向関連、企業動向関連及び雇用関連の全てのDIが3月調査分を下回った。

表2 - 15 景気の先行き判断DI

分野	調査日時	平成19年 6月	平成19年 9月	平成19年 12月	平成20年 3月	平成20年 6月
合計		50.4	50.4	37.1	41.5	27.1
	家計動向関連	47.9	48.0	34.2	40.5	25.0
	企業動向関連	54.4	54.4	41.2	42.6	30.9
	雇用関連	55.0	55.0	45.0	45.0	30.0

表2 - 16 回答構成比

	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている
平成19年 6月	1.7%	24.1%	51.7%	19.0%	3.4%
平成19年 9月	1.7%	27.1%	45.8%	22.0%	3.4%
平成19年12月	0.0%	6.7%	45.0%	38.3%	10.0%
平成20年 3月	1.7%	8.5%	52.5%	28.8%	8.5%
平成20年 6月	1.7%	6.8%	16.9%	47.5%	27.1%

県南地域

3か月先の景気の先行き判断DIは29.6となった。3月調査分より7.3ポイント低下し、横這いを表す50を3期連続で下回った。また、これは平成14年12月の調査開始以来最も低い値である。業種別にみると、家計動向関連、企業動向関連及び雇用関連の全てのDIが3月調査分を下回った。

表2 - 17 景気の先行き判断DI

分野	調査日時				
	平成19年 6月	平成19年 9月	平成19年 12月	平成20年 3月	平成20年 6月
合計	49.6	53.6	39.5	36.9	29.6
家計動向関連	52.9	56.1	40.4	39.6	31.8
企業動向関連	41.2	47.2	35.9	29.2	25.0
雇用関連	55.0	62.5	45.0	45.0	30.0

表2 - 18 回答構成比

	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている
平成19年 6月	1.8%	24.6%	52.6%	12.3%	8.8%
平成19年 9月	10.9%	20.0%	47.3%	16.4%	5.5%
平成19年12月	0.0%	16.4%	41.8%	25.5%	16.4%
平成20年 3月	0.0%	10.2%	37.3%	42.4%	10.2%
平成20年 6月	1.7%	0.0%	31.7%	48.3%	18.3%

県西地域

3か月先の景気の先行き判断DIは34.3となった。3月調査分より9.3ポイント低下し、横這いを表す50を5期連続で下回った。また、これは平成14年12月の調査開始以来最も低い値である。業種別にみると、家計動向関連、企業動向関連及び雇用関連の全てのDIが3月調査分を下回った。

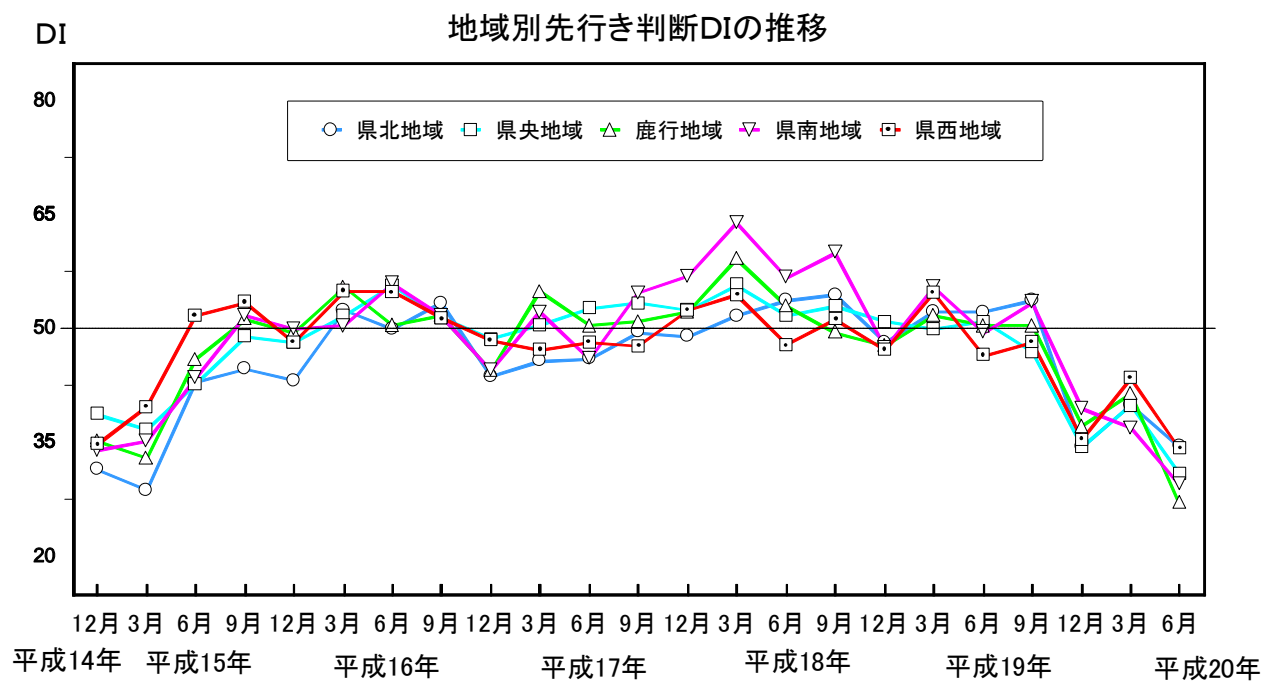
表2 - 19 景気の先行き判断DI

分野	調査日時				
	平成19年 6月	平成19年 9月	平成19年 12月	平成20年 3月	平成20年 6月
合計	46.6	48.3	35.4	43.6	34.3
家計動向関連	47.1	50.7	31.9	42.4	31.3
企業動向関連	46.1	42.1	40.8	44.4	40.8
雇用関連	45.0	56.3	40.0	50.0	31.3

表2 - 20 回答構成比

	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている
平成19年 6月	1.7%	20.7%	50.0%	17.2%	10.3%
平成19年 9月	0.0%	22.0%	54.2%	18.6%	5.1%
平成19年12月	0.0%	5.0%	46.7%	33.3%	15.0%
平成20年 3月	0.0%	16.9%	44.1%	35.6%	3.4%
平成20年 6月	1.7%	6.8%	35.6%	39.0%	16.9%

図2 - 2 地域別先行き判断DIの推移



3 回答率

地域	調査客体	回答数	回答率
全 県	300 人	294 人	98.0%
県北地域	60 人	57 人	95.0%
県央地域	60 人	59 人	98.3%
鹿行地域	60 人	59 人	98.3%
県南地域	60 人	60 人	100.0%
県西地域	60 人	59 人	98.3%

Ⅲ 景気の判断コメント — 1 景気の現状判断コメント

(1) 県北地域 【現状】

(－：回答が存在しない。 ○：主だった回答等が存在しない。)

回答	分野	業種・職種	理 由
良	－		
やや良く	家計	小売業（酒類）	店頭売りに関しては、来店客数、売上げとも減少傾向だが、インターネットによるワインの販売は伸びている。
		スナック	曜日に関係なく忙しい日がある。
		ゴルフ場	来場者数は3月、4月、5月と増加している。増加の要因としては、世の中、不安定要素が多くなると、逆に健康管理の必要性を痛感し、ストレス解消を含めスポーツに参加することが考えられる。一方、物価の値上りで、生活費を切り詰める傾向がでることは心配である。
変わらない	家計	コンビニエンスストア	コンビニエンスストアとしては、他業態を含めた価格上昇により、スーパー等との価格差の幅が縮小しているという追い風があるが、一方で低価格のプライベートブランド商品へ集中するという傾向もある。総合しても大きな伸びではなく変わらない状況である。売上げ、客数、客単価の変化はない。
		衣料品販売店	売上げ・数量が昨年と比較して変化がない。
		家電販売店	売上げが、前年に比べ少し上回る実績で推移している。
		農産物直売所	前年比、客単価とも横這いである。
		小売業（靴製品）	売上げが昨年並みとなっている。
		レストラン	客の声からの判断と店の流れで変わらないと思う。
		居酒屋	売上げが伸びない。
		旅行代理店	単価が上がらない。
		タクシー運転手	売上げがほとんど変わっていない。
		ゴルフ場	当クラブも前年度の110%前後を確保したが、近隣ゴルフ場でも前年の来場者数を上回っているとのことである。ゴルフをする人は多くなっているが、相変わらず低料金による傾向が強いと思われる。スポット的に低料金の企画による来場対策をしても、財布の紐は堅い。県南地域、県西地域等は、単価の上昇が見られると聞いているが、県北地域は「プレーヤーの確保に必死である。」と会合においても話が出る。むしろ、昨年より単価は落ちてる傾向と感じられ、集客人数確保重視の地域性を相変わらず感じさせられる。
		美容室	例年どおりで特に景気の変化によるものではないと思う。
		住宅販売会社	来場者数に変化はなく、動きがあまり見られない。
企業	企業	水産業関係者	漁港の景気は水揚げに左右されるが、本年は、小型船曳網は4月14日よりオキアミ漁が活発となり、現在引き続き好漁である。しかし、燃油の価格は上がる一方で毎日のように経費が増加している。豊漁でも景気が悪くなっていることが如実に表れ、またその他の旋網漁業、小型底曳網漁業にあっても原料高に見舞われ、採算ギリギリの線にある。燃油の高騰がいつ収まるかは漁業の存続に大きく影響してきている。
		製造業（食料品）	原料高の製品安が依然として続いている。
		製造業（電気機械器具）	受注、経常利益共、横這いである。
		製造業（電気機械器具）	夏物（水中メガネ等）は今月いっぱい仕事もあるようだが、特に良くなるという見通しはない。
		金融業	設備投資が少なく、景気が良くなっている実感はない。
		不動産業	県北市場は、さほどの変化なく推移している。日立地区においては、マンション市場が供給過剰気味であり、住宅市場も引きずられている感がある。
雇用	雇用	学校就業関係者	企業従業員向けの講座は、定員充足率が高く、特に資格取得関係の講座は人気が高い。しかし、生徒向けの求人受付はこれからなので、何とも言えない。
		求人開拓員	景気が良くなるという話より、原油価格の値上げの話ができてマイナス要因が増えてきている。
やや悪くなっている	家計	商店街代表者	ガソリンの値上げ、後期高齢者医療制度問題等で消費マインドが減退気味である。
		スーパー	買上げ商品の平均単価が減少している。惣菜商品（揚げ物）の販売点数が伸びている。価格が上昇した食用油等の材料を購入するよりも、食べる分だけの惣菜を購入する方が得という見方であると思われる。
		コンビニエンスストア	3か月前も物価は上昇していたが、さらに実勢価格も上昇している。客の生活防衛意識が強まっている。パンやカップラーメンのようにスーパーとの価格差が縮まった商品群の売上げは伸びているが、定価に近い売価の商品は売上げは低迷しており、客は支出に対して慎重になっている。
		衣料品販売店	ガソリン税暫定税率の復活とその後の原油価格の上昇に伴うガソリンの値上げにより市民の負担が増え、生活が苦しく、消費が減少している。

(1) 県北地域 【現状】

(一：回答が存在しない。 ○：主だった回答等が存在しない。)

やや悪くなっている	家計	和食食堂	昼間の客数には変わりがないが、夜間の客数が減少している。ガソリン高騰のためか自動車の通行が少ない。
		観光型ホテル	ガソリンの値上げ、各食材の値上げで先行きに不安を感じているので、3ヶ月前とは個人消費が異なってきていると思う。
		観光型ホテル	宿泊予約に変化はみられないが、日帰り予約が前年同時期に比べて減少している。景気はやや悪くなっていると感じる。
		タクシー運転手	5月のゴールデンウィーク後の売上げが厳しい。ボーナス支給後に期待するがどうなるか。
		タクシー運転手	客からの話では良い話が聞かれない。現在、時間帯により客数に波があり、日中は減少、夜も遅くなって多少動きがあるくらいである。我社でもタクシー代行の営業をしているが、代行のほうは忙しくなっている。
		ドライブイン	ガソリンの高騰が客足に直結しており、遠方からの常連客の来店回数が減少した。
		レジャー施設	団体客の来園は昨年並みなのだが、一般来園者の落ち込みが目立つ。
		ゴルフ場	天候に大きく左右される業種なので、3か月前との比較では一概に景気状況を判断できないが、原油高騰に伴うレジャー産業への影響は大きいと思われる。
悪くなっている	企業	林業関係者	各共販所とも素材の入荷は順調であるが、燃料代上昇分が輸送コストに影響を与えている。なお、杉の3.0m材柱の価格については下落している。また、住宅の着工数も減少しており、景気はやや悪くなっている。
		製造業（一般機械器具）	物の値上り。
		製造業（電気機械器具）	すべてのものの高騰から、売る側も購入し使用する側もこれらの対応に追われているのが現状。特に材料値上り分を製品・販売価格に乘せられないため、経営を圧迫しているのが現状である。3ヶ月前と比較すると、確実に景気はやや悪くなってきていると感じる。
		製造業（電気機械器具）	残業、休日出勤が減少している。
		製造業（電気機械器具）	受注、売上げともに好調を維持しており、高止まりの状況であるが、一部製品において国内需要が落ち込んでいる。
		製造業（輸送用機械器具）	原油高騰に伴い樹脂材料、梱包材料、運搬費等の値上りに加え、自社の燃料・動力費等にも影響が拡大し、かつ、鉄鉱石の高騰により鋼板（薄板）・棒鋼等の値上りに伴い自社の努力にて吸収出来る範囲を超え、各取引先に価格見直しを要請しているが、全てを価格に転嫁することが難しく、収益の確保がさらに厳しくなっている。また、原油高騰は従業員の旅費・交通費にも波及し、会社負担が増加している。
		建設業	原材料、その他コストの全般的な上昇により著しく収益を圧迫している。公共、民間工事ともに上昇分を転嫁できていないのが現状。業界の会合では皆同様に苦悩していた。
		建設業	原油高騰や相次ぐ値上げにより単価にも影響し、民間、公共とも発注が少なく、地域格差等の現状のなかでの景気は悪くなっていると感じている。
		情報通信業（情報サービス業）	物価上昇による経費の増加が売上げに転嫁できず、収益は悪化している。
雇用	人材派遣業	製造業の仕事量が大幅に減少したが、その主な要因は携帯電話の新販売方式の影響で受注量が減ったためと思われる。	
	公共職業安定所	新規求人数が平成20年3月より1,000人を割り込み、やや低調である。	
悪くなっている	家計	スーパー	先行きの不安についての話をよく聞く。ガソリンや食材の値上げを考えると良くなる要素がないとの話が多い。相槌を打つしか対応できない。
		自動車販売店	原油の高騰が続き、自動車を利用する機会を減らすことで出費を抑えられていることに伴い、整備に入庫する回数も減っている。
		ガソリンスタンド	ガソリン税暫定税率の廃止による1ヶ月のガソリン価格の値下げに始まり、マスコミは安価なセルフスタンドを多く報道したこと等により、現金客の流出と買い控えがひどい。
		小売業（水産物）	売上げが減少している。
		居酒屋	売上げが伸びていない。
		観光型ホテル	3か月前は歓送迎会の時期に当たり我々の業界はかなり潤ったが、その反動がでている。
		タクシー運転手	物価上昇でかなりタクシー客が減少している。
		美容室	原油高騰、物価の上昇に伴い、客の来店の間隔が長くなってきている。
		クリーニング店	客数、客単価ともに減少している。
企業	製造業（電気機械器具）	原材料価格の高騰により、材料費率が上昇し、原価割れ商品もでてきている状況である。販売価格に即転嫁できないため、非常に厳しい状況である。	
	製造業（電気機械器具）	納入実績が3ヶ月前より落ち込んでいる。	

(2) 県央地域 【現状】

(－：回答が存在しない。 ○：主だった回答等が存在しない。)

回答	分野	業種・職種	理 由
良	－		
やや良	家計	パチンコ店	売上げ、利益が増加している。
	雇用	求人開拓員	求職者をみると来館者数は微増である。しかし、新規求人登録者数は減じている一方、紹介人数が増え、やや良くなっている。
変わらない	家計	商店街代表者	交通量、人通りも相変わらず少ない。来客数は減少もなく増加もない。
		家電販売店	売上げがあまり変わらない。単価が下がって利益が少なくなっている。
		ファミリーレストラン	客数が前年に比べ同じような比率で推移しているため。
		観光名所	3か月前も今月も例年並みの売上げ、人出で推移している。
		ゴルフ場	3か月前の予想に反し予約申込みに伸びが見られない。
		レジャー施設	入場者が多少減少気味ではあるが、天候にも左右されているため、大きな変化はないと思われる。
		美容室	去年の売上げと比べてもさほど変わりが無い。
		住宅販売会社	来客数が増加していない。
	企業	製造業（印刷・同関連業）	特に変わった様子が見受けられない。
		製造業（窯業・土石製品）	引き続き購買意欲は低下している。生活必需品以外の物の購入には慎重である。
サービス業（コンサルタント業）		仕事先の小売店や飲食店の前年同月比を比較すると依然として悪い状態が続いている。	
雇用	求人広告	職種によっては人材確保が難しく、消極的な企業も増えてきている。	
	学校就業関係者	新聞報道等では景気に陰りが見られはじめている業種もあるようだが、来年卒業予定者の内定状況については概ね好調である。	
やや悪くなっている	家計	百貨店、総合スーパー	原油価格や原材料費の高騰は依然継続しており、先行きについても不透明感が強まるなか、度重なる各種商品の値上げによる消費意欲の低下傾向が進んでいるように感じられる。
		百貨店、総合スーパー	本年3月に比べれば売上増であるが、前年同月対比でみると、この3か月は毎月厳しい状況である。今月も同様の推移を見せている。
		スーパー	必要最小限しか購入しなくなっている。
		スーパー	食料品の価格値上げが続いている。客単価が下がっている。
		コンビニエンスストア	買上げ点数が上がらない。買うものを選んでいく傾向がより強くなっている。安い商品への反応が強い。
		自動車販売店	ガソリン価格の高騰や後期高齢者医療制度等の話で市民の考え方も現実的で消費に影響がでている。
		農産物直売所	来客数が減少している。
		専門スーパー	燃料費、食料品等の値上げで財布の紐が固くなっているような気がする。
		専門スーパー	ガソリンやその他生活必需品の値上げに伴い、客が生活防衛に入った感がある。必要な物のみを購入する傾向にある。高単価品の買い控えやワンランク下のものに移行している。値上げ分客単価は上昇するはずであるが、全体では変わっていないか、多少減少している。
		レストラン	原材料等の値上りにより、価格変更も含めたメニュー改訂を検討しなければならなくなっている。また、関係業種の人からも厳しいという話を聞く。
		割烹料理店	ガソリンの値上げ等により、外食することを少なくしたのではないかと。
		都市型ホテル	総会等の予約が昨年と比べ若干少なかった。各業界とも厳しいという話しか聞かない。
		旅行代理店	原油高騰による燃油付加運賃の値上げが、海外旅行旅客に大きく影響し、申込み数が減少している。
		タクシー運転手	飲食店からのタクシー利用客が少なくなっている。
		タクシー運転手	物価高の影響でタクシー利用もやや少なくなっている現状にある。景気はやや悪くなっているかと判断できる。また、客との会話でも良い材料はない。
		ドライブイン	飲食部門の来客数は前年並みであるが、客単価が低下した。また、土産品部門の販売が低下している。
		レジャー施設	燃料油高騰により、プレジャーボートの出港回数が減少している。
		建築設計事務所	4～5月にかけて資材が値上りし、予算を超えた建築物の延期・中止等がみられる。

(2) 県央地域 【現状】

(－：回答が存在しない。 ○：主だった回答等が存在しない。)

やや悪くなっている	企業	製造業(食料品)	仕入先からの原材料の値上げにより採算が悪化している。消費の低迷により売上げも減少している。
		製造業(食料品)	ガソリン価格を代表に物価の上昇が激しい。
		製造業(印刷・同関連業)	資金繰りはだんだん良くなっているものの、原材料費の値上げはメーカーから発表になっており近日中に影響は出てくると予想する。一方、顧客への価格転嫁は厳しい状況である。入札を安値で取っているライバル会社もあるが、原材料費をどう工面しているのか疑問である。近県での倒産や設備投資の失敗の話も聞く。また、地方での仕事量の確保の難しさを感じる。
		製造業(金属製品)	原料の鋼材価格の上昇が止まらない。年初時期と比べて約60%も値上りしている。
		製造業(一般機械器具)	当社は設備関係の仕事が多いため毎年4、5、6月とだんだん良くなり、3月に頂点をむかえるのだが、今年は少し違う感じで、伸びが見られない。
		建設業	ガソリンの値上りや鉄鋼材が高騰している。
		運輸業(道路貨物運送業)	新年度に入って貨物の動きがあまり良くない。景気の先行きについて不安要因が多いのかもしれない。
		情報通信業(情報サービス業)	話題は、決まったように原油や素材高から始まり、市場においては先行き不安から動きが鈍い。従来は企業の規模や業種により、景況感は異なっていたが、現在ほどの企業においても景気は踊り場にあるとして先行き様子見の姿勢になっていると感じられる。特に設備への投資は慎重になっていると感じられる。
		金融業	最近3か月でガソリン代等も含め諸物価が高騰しており、また、後期高齢者医療制度等の話題もあり、閉塞感が増している。
		不動産業	分譲マンション等の販売状況は良くない。分譲、賃貸とも値引きしているが供給過剰のため、追いついていない。
サービス業(広告業)	広告受注額は10%ほどダウンしている。受注金額の下落は、もう少し続くようで、同業他社との体力勝負となっている。		
雇用	人材派遣業	燃油の価格が高騰し、物価が上昇している。	
	公共職業安定所	新規求人数が4か月連続で減少しており、減少幅も12.6%(直近3か月平均前年比)と大きい。また、新規求職数は、3か月前との比較では11.0%増となっている。	
悪くなっている	家計	商店街代表者	値上りの影響が大きい。燃料、食料品等の日用に関するものの値上げが現状では非常に厳しい。
		スーパー	人件費削減や営業努力により、店としての業績はかなり改善されたが、それが給料に反映されず、サービス残業が大幅に増えてしまった。また、世代間の賃金格差により若い世代の流出に歯止めがきかない。
		スーパー	原料価格高騰による各種商品の単価上昇により、消費が低迷している。
		コンビニエンスストア	客単価が下がっている。単価の高い商品が売れなくなっている。夜間の客数が減少している。
		レストラン	集客数が前年に比べ、この3か月でかなり減少傾向にある。アンケート等によれば、ガソリンの値上げが最も影響を受けている。
		観光型ホテル	宿泊の当日や前日に予約を入れる、いわゆる間際(まぎわ)予約が減少していることから、個人旅行者が消費を控えていると思われる。
		タクシー運転手	前年度同期と比べて、実車回数で7.9%減、売上額で1日あたり1.5%の減であり悪くなっている。

(3) 鹿行地域 【現状】

(－：回答が存在しない。 ○：主だった回答等が存在しない。)

回答	分野	業種・職種	理 由
良	－		
やや良	企業	水産業関係者	漁獲量が増加傾向にあり、工場稼働率が上がっている。また、製品需要についても、冷凍品の海外輸出が順調に推移している。
変わらない	家計	商店街代表者	消費者は金の使い方によりシビアになっている。
		自動車販売店	高級自動車が売れない一方で、軽自動車やコンパクトカーの売行きは好調である。
		農産物直売所	ギフト商品の売行きは例年並みである。発送する件数等も変わらないように思われる。
		観光型ホテル	利用者数は3か月前と変わっていない。
		タクシー運転手	街の様子や乗客の様子からみて、3か月前と変わらないと思う。
		住宅販売会社	良くなりつつあった業種も、原油価格高騰等の影響でシビアになっている。
	企業	農業関係者	諸物価の値上りで、生活費を切り詰めている様子が窺える。例えば、出荷基準を外れた品を直売所に安価で並べると、瞬く間に売り切れるといった、これまでにない現象が起きている。
		製造業（化学工業）	定期修繕期間中のため、生産量の減少が続いている。
		金融業	ガソリン価格値上げによる将来の物価上昇を気にする動きはあるが、現状の景気は変わらない。
		保険業	景気は悪いまま変わらない。無駄遣いをせずに我慢している状態である。
		不動産業	細かいことでいうと、印刷用紙の値上がりが若干あったくらいで、他の事務用品の値上りはなく助かっている。
		サービス業	年度初めであることを勘案すると、受注量の低下はあまり大きくない。
	雇用	人材派遣業	現在の人材派遣業界全般にいえることだが、特に鹿行地域においては、適正人材が不足気味で、客先からの要望に十分応え切れていない。なかでも、コンビナート各社から要請の多い交代勤務可能な30歳以下男性が不足気味である。若年層が安定的に就業していることの裏打ちともいえるが、要員要請は引き続き要望されており、派遣業界としては人材の確保に苦慮しているところである。
		学校就業関係者	変化が見られなかった。
やや悪くなっている	家計	商店街代表者	身近な通勤用のガソリン価格が値上がりしているうえに、食料品やその他の諸物価も変動している。消費者は懐具合を鑑みて過敏に反応しているように思われる。
		コンビニエンスストア	ガソリンを含め、物価が上昇しており、思わぬ商品が売れたりすることはあるが、基本的な商材は売上げ減となっている。
		小売業（金物店）	石油関連商品の値上りに伴い、売上げはやや下がっている。また、配達経費も上がり利益を圧迫している。
		小売業（書店）	客数が減少しており、売上げも低迷している。
		衣料品販売店	客1人当たりの平均単価が減少している。ボーナスシーズンになり、高額品の動きに期待したが、例年のような動きがない。物価上昇の影響が家計を直撃しているのを強く感じる。
		スナック	悪くなったうえに、より悪くなっている。
		洋食食堂	食材が値上がりしているうえ、客数も減少している。
		タクシー運転手	いつも行く場所より「1メートルくらい手前で止めて」という乗客が多くなった。また、客との会話の中で、行きつけの美容院等を料金の安い店に変えたという話があった。
		タクシー運転手	景気が悪くなって、しかも物価が上がるという二重苦のシステムとなっている。タクシー料金も含め、客は安いもの、得なものを選んでいる。
		タクシー運転手	前年の6月と比較すると、売上げが15%減少しており、景気はやや悪くなっている。
		ドライブイン	ガソリンや食料品等の値上がりにより、家計が圧迫されているため、ドライブインの売上げはやや悪くなっている。
		観光名所	今年の3～4月頃から、毎月のように様々な商品の価格が上昇しており、客からも「生活が苦しい」という声を聞くことが多い。
		理容店	6月は梅雨の時期だが、雨の日は自動車の運転ができない子供や高齢者の来店が減少するので、毎年のことだが、景気はやや悪くなっている。
		クリーニング店	物価が上がっているため、経費は従前より多く掛かるが、収入は同じである。加えて、1人当たりのクリーニングの点数が減ってきた。自宅で洗える物は洗ったり、毛布やジュータン等もコインランドリーで洗っているようだ。
住宅販売会社	3か月前より来場者数が減ってきている。		

(3) 鹿行地域 【現状】

(－：回答が存在しない。 ○：主だった回答等が存在しない。)

やや悪くなっている	企業	製造業（食料品）	霞ヶ浦の漁期になっても漁獲量が少ないため、在庫が僅少で売上げも減少している。
		製造業（食料品）	燃料費の値上げを始めとして、全ての原材料価格が二度三度と高騰した。対応として、原材料の見直しや商品価格の値上げをしたが、利益率の確保は難しい。
		製造業（飼料）	穀物の高騰が相変わらず続いている。販売量が若干低下し、販売単価も減少している。
		製造業（鉄鋼業）	原材料価格の高騰により経費が増加している。
		運輸業（道路貨物運送業）	鹿島臨海工業地帯の工場関係では、量的にはそう大きな変化はない。しかし、ガソリンの暫定税率の影響で、4月は良好だった各社の損益が、5～6月は大きく悪化しているようだ。
雇用	民間職業紹介業	相変わらず企業からの求人依頼はあるものの、求職者登録が少なく、マッチングが図れない現状が続いており、業績が伸びないでいる。	
	公共職業安定所	有効求人倍率が低下している。また、事業主都合の離職者数が増えている。	
	求人開拓員	6月はコンビナートの定期修理時期で、例年通り関連業種は忙しい時期ではあるが、円高により仕事が海外へシフトされている請負業種の仕事量は減少し、かつ単価が安くなっている。また、建設関係も低迷が続いている。	
悪くなっている	家計	商店街代表者	物価の上昇により、売上げが減少している。
		スーパー	ガソリンや食料品、各種製品の原材料等が値上げされているにもかかわらず、給料には大きな変動がないようで、消費者は節約ムードである。
		スーパー	日用品の値上がりが大きくなっており、消費者の買物が、日替り商品等の安いものだけに集中している。
		コンビニエンスストア	ガソリンや食料品等の価格高騰もあり、消費意欲が落ちてしまっている。今後何か対策が必要ではないか。
		家電販売店	原油価格の高騰に起因した生活用品等の値上がりが、消費者の購買意欲を下げていると感じる。
		小売業（菓子販売店）	原材料や包装資材等、製造過程のすべてに値上げが影響しているが、商品は値上げできず非常に苦しい状態である。一方、消費者の購買意欲は極端に弱くなってきていると感じる。
		小売業（酒類）	ビール、発泡酒類の値上げがあり、客数、客単価ともに減少している。
		小売業（薬品店）	ガソリンを始めとした色々な生活用品が相次いで値上がりしており、消費が大きく鈍っている。
		日本料理店	「おまかせコース」の単価を以前より低く設定する客が増えてきたので、自然と売上げも落ちている。
		観光型ホテル	石油価格の高騰のため、ありとあらゆる商品が値上げされている現状では、私も含めて、余計なことにお金を使わなくなっている。
		パチンコ店	食料品やガソリンの値上がりが続き、一般家庭の家計に打撃を与えている。余計な出費を抑える傾向にあり、売上げは悪化している。
		パチンコ店	当店を含めた商圈全体の売上げが落ち込む日が増えている。
クリーニング店	売上げ、客数ともに減少している。		
企業	製造業（印刷・同関連業）	受注件数が減少している。	
	製造業（化学工業）	原材料価格の高騰による大幅な経費の増加と、価格転嫁の遅れにより、短期間で大きく減益となっている。	
	製造業（食料品）	原材料や原油価格の高騰の影響で、売上げが全般的に不調である。取引先の資材店や小売店の客の様子から判断しても、景気は悪くなっていると思う。	
	建設業	新規着工件数が減っている。	
	運輸業（道路貨物運送業）	5月の中旬から、従来の活発な動きが止まっている。それに伴って運送の動きが鈍くなっている。燃料や原料価格の高騰は貨物の動きに大きく響いていると思う。予定されていた仕事がキャンセルになったり、遅れて入ってきたりしている。	

(4) 県南地域 【現状】

(- : 回答が存在しない。 ○ : 主だった回答等が存在しない。)

回答	分野	業種・職種	理 由	
良	家計	農産物直売所	店舗を増築し、品数も増加したことにより、客にゆったりと買物してもらえるようになったため売上げが増加したと思う。	
やや良くなっている	家計	スーパー	このところの原油高、原材料の不足などを理由に各メーカーから値上げ交渉があるが、当店では現在のところあまり価格に転嫁できていない。一方、競合店では値上げをしていることもあり、3ヶ月前と比較すると客数、売上げは上昇しているが利益の確保が難しい。	
		コンビニエンスストア	客数、売上げが若干ではあるが、上昇傾向になっている。	
		家電販売店	オリンピックを見越した需要により映像関連機器の商品が好調となり、売上げが増加している。	
	企業	運輸業（倉庫業）	今月は食品関連の貨物が落ち着いている。3ヶ月前は、原材料価格高騰の影響もあり、貨物の入庫が多かった。中国関連の貨物は北京オリンピックの関係で工場の操業が止まるので、早めの受入れが多くなっている。景気はやや良くなっていると思われる。	
	雇用	学校就業関係者	新規の求人企業からの問い合わせが3か月前に比べ増えている。また、昨年度と比べて求人が増えてきている。	
変わらない	家計	商店街代表者	地域商店街の消費流出が最近一段と進み、危機的状況に追い込まれている。ただし、直近の3か月というスパンで考えた場合には、季節、業種間など多様な面はあると思うが、大きな変化はないように感じる。	
		スーパー	ここ3か月、売上げ前年比で毎月同じ数字で推移しているので、景気の変動はないように感じられるが、原油価格の高騰や小麦、とうもろこし等の穀物価格の高騰により売れ筋が変わっているように感じる。	
		スーパー	3か月前と同様、前年比は確保できている。しかし、リカー等の酒類部門は、各メーカーの値上げの影響もあり、3か月前の前年比と今月の前年比を比べると、今月の方が低調になっている。	
		スーパー	来客数、顧客1人当たりの買上げ点数も3か月前と同じ状況である。	
		専門スーパー	原油価格の高騰により、色々な商品の値上げも実施されているが、当店では生活必需品を数多く取り扱っているためか、値上げによる買い控えは感じられない。さらに、ガソリンのように、値上げ前にまとめ買いをしようという流れも見られず、客に生活の逼迫感も感じられず、客は必要に応じて必要量を購入しているので景気の変化はないように思われる。	
		都市型ホテル	客との打合せの中では、3か月前と比べてあまり変化はない。特に宴会については、セールストークをしても単価を増加させることができず、昨年と同様の内容で承っている状況である。	
		旅行代理店	6月は行楽時期であるので、3か月前と比べるとツアーの申込み客数は増加しているが、前年同月期と比較すると変わらない。	
		タクシー運転手	売上げから判断した。	
		ゴルフ場	特別に大きな変化は感じられない。全体的には横這いというところである。	
		ゲームセンター	新規の客数が増加していない。	
		建築設計事務所	3か月前と比べて受注数は変わらない。	
		住宅販売会社	一時期良い動きが見られたが、インフレ傾向にシフトしつつあり、動きが鈍くなりつつある。	
		企業	製造業（食料品）	特に大きな変化は感じられない。
			不動産業	3月の繁忙期をピークに取引件数は減少しているが、これは例年のパターンである。インターネットによる集客が増えているのがプラス要因であるが、客が選択する他社物件が増加していることがマイナス要因であり、全体としては変わらない。
雇用	人材派遣業	増員数に大きな変化がない。		
	公共職業安定所	原油高、円高などの要因があり、流動的ではあるものの、表面上変動はあまりない。		
やや悪くなっている	家計	スーパー	買上げ点数が減少している。	
		コンビニエンスストア	競合店の閉店という外的要因もあり、売上げ前年比は良いが、客の購入状況を見ると、必要最低限の商品しか購入しないケースが多い。また、プライベートブランド商品の構成比が上昇していることから、客の価格に対する意識は日々厳しさを増している。	
		衣料品販売店	昨年に比べ気温が低い日が多かったことや物価上昇に伴い先行きに不透明感があり、買い控えも起きている。また、客単価も約95%に低下している。	
		農産物直売所	ガソリン価格の値上げにより自動車による遠方からの来客が減少した。また、バイオ関連食品の価格が上昇している割には野菜の価格が安価であるため、身近な小売店で野菜などを購入しているものと思われる。	
		寿司店	来客数が減少している。また、来客者のうちアルコールを注文する客数が減少している。	

(4) 県南地域 【現状】

(- : 回答が存在しない。 ○ : 主だった回答等が存在しない。)

やや悪くなっている	家計	都市型ホテル	3か月前と比べて、ガソリン価格などの値上がりが影響しているのか、宴会予約は減少している。宿泊に関しても出張が減少しているように思われる。	
		旅行代理店	ピークである夏の旅行の受注数が前年同期及び3ヶ月前と比べてさらに減少している。	
		タクシー運転手	ガソリン税暫定税率の復活及びガソリン価格の値上げに伴う個人の生活、消費への影響は深刻さを増している状況である。	
		ゴルフ場	土曜日・日曜日の来場者数はそれほど変化がないが、平日の来客数が減少傾向にある。	
		美容室	原油価格の高騰や経済政策の先行きの不安により、消費が低迷している。	
		美容室	物価高の世相のなか来店頻度が減少傾向にある。特に、高齢者の来店頻度が減少している。	
	企業	農業関係者	ガソリンの価格高騰により、1円の価格差にも敏感になってきている。外食に行く回数や飲みに行く回数も減っている。	
		製造業（食料品）	物価の上昇や後期高齢者医療制度の問題等による買い控えがあり、売上げが減少している。	
		製造業（食料品）	来客数が減少している。	
		製造業（印刷・同関連業）	仕事の受注量は例年どおりで減少してはいないが、用紙等の原材料費の値上げ分を販売価格に転嫁できていないため。	
		製造業（窯業・土石製品）	鋼材、セメント、石油製品関連製品等の原材料の値上げを要求されており、応じざるを得ない。	
		製造業（窯業・土石製品）	原油価格、原材料価格の高騰により製品単価が上昇しているが、それに見合う製品への価格転嫁が難しい状況にある。	
		製造業（一般機械器具）	原油価格、原材料価格の高騰や円高の影響を受け、徹底した経費節約や省エネ活動が活発となっている。	
		建設業（設備工事業）	官庁発注の公共工事の減少により、同業者の競争が激しくなり、単価が低下し、利益が減少している。また、諸物価の値上り等による経費の増大の影響がある。	
	金融業	原油価格の高騰により、衣食住すべての分野において景気に対する不安感がある。		
	雇用	求人広告	求人掲載をする企業が減少している。燃料費の値上り等により、求人を縮小する傾向もある。	
		雇用相談員	ここ数か月の求人数が減少している。新規出店や工場増設を別にする、退職補充等の現有人員の維持のための求人が多くっており、景気の先行きに不安を持っている企業が多い。	
	悪くなっている	家計	自動車販売店	燃料代の高騰や物価の上昇等による先行き不透明感により、個人消費が低迷している。また、職種によっては仕事量が減少し、設備投資等にお金が回っていない。
			ガソリンスタンド	3月末から4月末までガソリン税暫定税率の問題があり、この業界システムの変更等で大変な労務になってしまった。また、原油高騰でさらに価格が上昇しており、客に説明しても理解してもらえない。
和食食堂			客数が極端に減少している。また、土曜日・日曜日の家族連れの来店も減少している。	
洋食食堂			とにかく客足が途絶えている。特に5月の減少がひどかった。	
パチンコ店			稼動及び売上げが減少している。	
レジャー施設			5月の連休期間を含め、例年並みの来客数まで達していない。同業他社も同様である。	
企業		製造業（食料品）	3か月前と同じく、食材等の値上げがまだ続いており、終息する気配がない。配送コストも上昇し、悪い所ばかりが目立つようになった。客の要望にできるだけ対応するためのコスト削減も限界にきている。	
		製造業（非鉄金属）	受注売上げは前年比5%程度増加しているが、原油価格の高騰により燃料費及びその他生産に必要な工場消耗品等が値上りしたため収益が悪化し、4月中間決算は大幅赤字の見込みである。	
		建設業	民間からの問合せ、見積り、現地説明は非常に多いが、契約まで至ったものはごく少数である。官公庁からの公共事業の入札指名がほとんどない。	
		建設業（設備工事業）	建設関係の仕事がない。	
		建設業	原油及び鋼材の価格高騰が影響している。	

(5) 県西地域 【現状】

(－：回答が存在しない。 ○：主だった回答等が存在しない。)

回答	分野	業種・職種	理 由
良	企業	製造業（金属製品）	新規の仕事の引き合いも多く、受注件数、数量とも増加している。
やや良く	企業	製造業（化学工業）	大幅な動きはないがやや受注が上向いている。自動車関連はやや減少しているが、一部半導体パッケージ関連の製品が動き出している。
		製造業（電気機械器具）	求人募集への応募数がさらに減少している。
変わらない	家計	スーパー	当社は食品が中心なので、極端な買い控えはない。ただ、客は価格に対して敏感になっており、値上げに応じた価格設定を簡単にすることができないのが現状である。
		コンビニエンスストア	食品の値上げで買い控えている客も多いが、必要なものは変わらず購入しているしており、売上げも下がっていないものが多い。
		専門スーパー	特別目立つ動向はない。
		和食食堂	メニューを新しくして多少値上げしたが、売上高は変わらない。
		タクシー運転手	景気がまだ回復の見込みがない。
		ドライブイン	来客数、客単価ともに大幅な変動はなく、景気状況は変わらないと感じる。購買意欲も変わらないように感じる。
		ゴルフ場	予約の状況には変化がない。
		ゴルフ場	予約の入りは早くなってきているが、蓋を開けてみると蓋例年と変わらない来場者である。
		理・美容店	変化はないが原油高で今後は気になる。
		住宅販売会社	金利上昇や物価高等の不安要素がある。
企業	企業	農業関係者	直売所の売上げは、中国製冷凍ギョーザの事件の反動により、安心、安全な商品を求める消費者の傾向はさらに強くなったこともあり、前年に比べ15%ほど増加した。しかし、一方で、生産現場では、肥料の原料となるリン鉱石の価格高騰と中国の輸出規制措置（すべてのリン製品に100%の特別輸出関税）により肥料価格が上昇しており、また、原油の値上げによるビニール等の生産資材経費も上昇している。
		製造業（窯業・土石製品）	前年度からみると、やや悪くなっているという感じだが、4月に入り少し落ち着いた様子である。あまり期待はできないが、需要期に入るので多少の変化があるかもしれない。
		製造業（窯業・土石製品）	現時点では忙しいが、3、4日先は全く不透明なのが現況である。現在忙しい理由は、中国製品に不良品がでると、納期に間に合わないので、当社のような問題解決型加工メーカーに超至急の仕事が回ってくるためである。
		製造業（一般機械器具）	仕事仲間から、「最近の仕事が少ないので、何かあったら仕事を回して欲しい」との話があった。自社においても、仕事は少ないうえ、納期が短いものが多い。
やや悪くなっている	家計	スーパー	買上げ点数の前年比が、3月、4月、5月と段々に下降している。
		コンビニエンスストア	平日と週末とで客層が変化するが、共通して客単価が上昇してこないことや、衝動買いが見られない。
		家電販売店	家電の需要予測からすると、オリンピック需要により液晶テレビ、プラズマテレビ等の映像関連機器の商品の動きが活発になる予定であったが、前年と比べても思うように数値が伸びておらず、需要予測とかなり開きがある。
		自動車販売店	ガソリン価格の値上に伴い、販売台数も前年を下回っている。
		和食食堂	燃料代、ガソリン代、各種原材料の値上げにより利益が減少している。
		和食食堂	ガソリン価格、原材料価格の高騰等の影響もあり、低調でやや悪くなっている。
		多目的ホール	婚礼、宴会予約は3か月前と比べて多少増加していると思うが、前年に比べて客数、単価等は減少気味である。
		旅行代理店	この時期は毎年建築関係の客が多いが、昨年同時期に比べると減っている。
		タクシー運転手	毎年のことだが、春は会社等の異動の時期で仕事が増えるが、その反動が今月にくる。
		ドライブイン	ガソリン価格高騰の影響のためか客数が減少している。客単価も以前に比べ低下している。
		パチンコ店	3か月前と比べて、自店と近隣店舗の合計客数の1日当りの平均が減少している。
		ゲームセンター	来客数の減少、客単価の減少と徐々に悪くなっている。
		レジャー施設	あらゆる物価が高くなっているために、人の動向が悪くなっているように感じる。
理容店	地元で企業の撤退や規模縮小が相次いでいる。		

(5) 県西地域 【現状】

(－：回答が存在しない。 ○：主だった回答等が存在しない。)

やや悪くなっている	企業	農業関係者	原油高騰に伴い生活用品や農業用の肥料、ビニール資材、ダンボール、運賃等ほとんどの品目で価格が上昇している反面、農産物の価格は上がるどころか下げに入っている。
		製造業（食料品）	原油価格の高騰により、原材料のみならず資材品も値上げ要求が来ている。
		製造業（食料品）	居酒屋、焼き鳥屋等飲食店の客数が減少してしているため、当店も卸し部門の売上げが減少している。
		建設業	原油の高騰により諸物価の値上げに対し、販売価格への転嫁が思うようにできない。
		金融業	ガソリン価格高騰の影響は、多業種に対して直接的・間接的に影響を与え、事業収益を圧迫している。利益確保に追われ、景況感はやや悪化している。
		製造業（印刷・同関連業）	当社は印刷業であるので、この時期は売上げが多いはずであるが、今年に変化が見られない。通年では考えられないことである。客の声も、景気が上向きになっているという話は聞かない。逆に悪くなっているとの声の方が多いように思う。
		サービス業（コンサルタント業）	昨今の原油高により、石油製品類が高騰し、経費が増加している。
雇用	求人広告	求人される企業も全体的に少なくなってきた。特にサービス業からの求人が少ない。	
	公共職業安定所	新規求人数は対前年同月比で減少傾向にあり、特に、製造業の減少が目立った。有効求人数は5ヶ月連続で減少となっている。	
	学校就業関係者	鋼材を定期的に購入しているが、数週間ごとに価格が上昇している。業者の話では、建物の主要材であるH形鋼の注文がなく、これに付随するその他の鋼材も落ち込んでいるとのことである。	
	就職相談員	家計収入確保のため、子供を学童保育に預けてでも働きたいという主婦が増えてきている。	
悪くなっている	家計	商店街代表者	あれもこれもと雪崩のように物価が高騰している。買い控え行動にでざるを得ない。
		商店街代表者	当店の店売り部門の売上げが前年比の約80～85%に落ち込んでいる。
		スーパー	来客数が減少し、買上げ点数も前年を下回っている。
		衣料品販売店	暑かったり、寒かったり等、天候、気温が不安定な日が多く、その日の消費もそれに左右されてしまう。「母の日」「父の日」などのイベントはあるものの、年々、単価も下がり、件数も減少してきている。
		農産物直売所	原油、小麦、大豆、とうもろこし等の高騰によりすべての物価が上昇し、消費者の不安が増大しているようである。
		ガソリンスタンド	ガソリンを満タンまで給油せず、「10」や「1,000円分」といった定量、定額給油の客が増加した。また、ハイオク仕様の車でもレギュラーに切り替えて給油したり、普段はワックス洗車の顧客が、安価な水洗い洗車に切り替えたりしている。そして、なによりも、来店数、ガソリン総販売量が減少している。
		和食レストラン、割烹	ガソリンや食料品等の生活用品の値上げに伴って外食の回数が減少していると思う。マスコミの影響もある。
		都市型ホテル	いろいろな物が値上りし、客の来館が減少し、景気が悪くなってきた。
		タクシー運転手	異常ともいえるガソリン高、物価高等により生活防衛している。
		タクシー運転手	昼間の客がどうで夜の客がどうでということではなく、とにかく景気は下向きな感じである。明るい話題はほとんど聞かれない。買物客、ビジネス客のどちらからも同じような話を聞く。いろいろな物の値上げで家計が苦しいのはもちろんだが、工場等の製造側（企業側）も決して余裕のある状態とはいえない様子である。
企業	クリーニング店	石油関係が値上りしている。	
	建築設計事務所	地場の建築業者の低迷は依然続いており、受注量がさらに減少していると思われる。6月に入り原油の値上りも影響して建材がかなり値上りをしてきており、消費者は今後の動向をみながらの動きになっていて、業者も消費者も非常に混乱している状況と思われる。	
	製造業（印刷・同関連業）	材料（紙、インク）値上り分を価格に転嫁できない。主に官公庁からの仕事が前年度を下回る価格で取引されている。	
企業	運輸業（道路貨物運送業）	荷主からの仕事の受注が少ない。	

Ⅲ 景気の判断コメント — 2 景気の先行き判断コメント

(1) 県北地域 【先行き】

(- : 回答が存在しない。 ○ : 主だった回答等が存在しない。)

回答	分野	業種・職種	理 由
良	企業	製造業（電気機械器具）	落ち込みが大きかった今月に対し、生産計画が増えている。
やや良く	家計	家電販売店	映像商品の売れ行きが引き続き好調である。さらにオリンピック特需が期待できる。
		スナック	少しずつだが売上げが伸びてきている。
	企業	不動産業	金利、原油価格等が今後上昇すると予想されており、今のうちに購入したいという駆け込み需要を期待する。
変わらな い	家計	コンビニエンスストア	現在の状況でも、既に必要最小限のものへの支出を客はしている。現状、客単価は前年と比べ同様（値上げのため）であるが、買上げ点数は低下の傾向が継続していることから上記の様子が判断できる。コンビニエンスストアだけでみれば、値上げに対して強い点もある（スーパーとの価格差縮小）が、客の支出は慎重なままだと思われ、現状と変化はないと思う。
		コンビニエンスストア	景気が良くなるという要素がない。
		衣料品販売店	デザイン性の高い商品が売れていない。日常の商品は、昨年並みになっている。
		小売業（水産物）	先の予測が立たないが、マグロ、イカ等が高くなるので、その分が心配である。
		小売業（靴製品）	売上金額が上向くとは感じられない。
		レストラン	景気が良くなることを期待していきたい。
		居酒屋	先が見えない。
		和食食堂	4月に小麦粉、油、醤油その他いろいろと値上りしたが、うちの店では値上げしていないにもかかわらず売上げが伸びないため。
		観光型ホテル	宿泊、日帰り利用とも予約状況に変化がない。
		旅行代理店	各企業内職場旅行の間合せが増えてないと思われる。
		タクシー運転手	この3か月先、地元企業の景気がどのようになるか分からない部分があるが、変わらないと思う。
		ドライブイン	物価上昇が続くそうなので、良くなる要素が見当たらない。
		美容室	客数の減少となるが、毎年時期的なもので想定内である。
		住宅販売会社	今後3か月という短いスパンでは変化ないと思う。
		企業	林業関係者
製造業（食料品）	売上げは減少すると思われるが、季節的な要因のため、その他は現在と同様の状態が続くと思う。		
製造業（電気機械器具）	受注案件の見通しがないためと資材等の高騰、入荷困難により原価高騰のため。		
製造業（電気機械器具）	悪い原因としては受注残が減っていることがあるが、良い材料として新規物件の受注が見込める。		
建設業	国の政策を見ながら考えたい。		
金融業	日立地区は地元大企業の業況により大きな影響を受けるが、現状では地元大企業からの受注が増加しているとの話はあまり聞かない。また、運送業では、原油高となっても運賃に反映されないことから、収益確保が厳しい状況であるとのこと。		
雇用	学校就業関係者	何ともいえないが、良くなる要因がないように思う。	
	求人开拓員	新卒者の採用により人材確保できたが、それに見合う受注がないため、社員教育等の先行投資に力を入れていくので変動はみられない。	
やや悪くな っている	家計	スーパー	収入の多い所得者は都市部に集中している現象が見られるため、都市部の景気は良くなると思うが、高齢者の預金等の取り崩し等による経済基盤がなくなるため、支出は食費から抑えられると考えられるので、一般的（全体的）には景気は悪くなると思う。
		農産物直売所	燃料や食料品、すべての物の値上げが続いており、家計は厳しさを増すばかりで景気はやや悪くなると思われる。
		小売業（酒類）	近隣の多くの企業の業績が悪く、労働者の収入面が伸びず、物価の上昇に追いつかない様子が目立ち、必要外ものは消費されない傾向である。
		タクシー運転手	物価がだいぶ上がっている影響が心配される。
		タクシー運転手	企業の夏期の休み次第だが景気はあまり期待できない。

(1) 県北地域 【先行き】

(－：回答が存在しない。 ○：主だった回答等が存在しない。)

やや悪くなっている	家計	ゴルフ場	物価の値上げが浸透してくる。温暖化による天候変化が激しいので、ゴルフ等の日程を入れるのが直近になる。レストランの食材高騰により料金値上げの影響が懸念される。
		レジャー施設	出控え、買い控えによる収入の減少と仕入れ値の上昇が確実である。
		ゴルフ場	原油高騰の影響は長引くものと考えられる。レジャー産業にとって、消費動向が安・近・短に逆戻りすることが危惧される。
		美容室	収入が変わらないのに物価ばかりが上がっているので景気が良くなるはずがない。
悪くなっている	企業	製造業（電気機械器具）	原材料類の価格の高騰は、さらに3か月後にもう一波が予定されている。それらを考慮すれば、景気は悪い方向に向かうと思う。その結果、鉄離れ（高価な鉄から、安価な素材等に転化する）が発生し、製造業を取巻く環境は良くない状況に向かうものと思われる。
		製造業（電気機械器具）	電子デバイス関連メーカーの投資控えの影響により、受注が一時的に減少することが予想される。
		製造業（電気機械器具）	原油高、食品類の値上げ等が長く続けば、すべての業種において良くはならないと思う。
		製造業（輸送用機械器具）	この状況は今後も継続し、さらに状況が悪化するものと予想される。
		建設業	顧客が試行錯誤のうえ事業を進めていても思惑どおりには進んでいないようだ。このような状況はまだ続くと思う。
		情報通信業（情報サービス業）	今後とも物価上昇は暫く続きそうなので、収益はさらに悪くなると思われる。
雇用		人材派遣業	材料の値上げや石油の値上げで製品が高くなり、生産が落ち込むとみられる。
		公共職業安定所	原油高等により原材料が高騰し、収益を圧迫しているとの声も聞かれる。
悪くなっている	家計	スーパー	買上げ点数が落ちている。必要以上に買い物をしない。国道沿いのファミリーレストラン等客入りが悪い。価格にシビアである。
		衣料品販売店	4月から実施されている市の行財政健全化計画の遂行により、市民の負担が増え、消費が伸びない。
		自動車販売店	今後も原油の高騰が続けばさらに厳しくなると思われる。
		ガソリンスタンド	マージン低下と買い控えで販売量が減少する。
		居酒屋	年間を通して売上げが伸び悩む時期であり、また、常連客が転勤等により減少している。
		観光型ホテル	身近なものの値上げによる不安、3ヶ月後にどうなっているかという不安が多い。夏の天候によっても個人消費は変わると思うが、あまり良くないと思う。
		タクシー運転手	多分景気は良くないと思う。ガソリン、食料品の価格が上がり、無駄なお金を使わないだろう。タクシー等は用事がなければ使わないと思う。先が見えない。
		ゴルフ場	来場ためのアクセスの悪さが挙げられる。ネット検索するとインターチェンジから要する時間は30分前後と表示され、微妙なところである。そうしたなか、ガソリンの値上げによる今後の首都圏の来場者確保に不安を感じている。交通費増によるトータルの経費を考えると、近隣でのプレーを選ばれる方が多くなるのではないかと。アウトサイド、インサイド来場者の動向が今後の鍵である。また、近年、気象の変化が著しいこと、メディアの情報的高速化により人の動きが簡単に左右されること等が経済情勢ほかの考慮と併せて不安な材料となっている。
クリーニング店	当社も含め、業界全体が売上げ減少傾向にあり、今後も売上げ減少が予想される。		
企業		水産業関係者	オキアミは非常に冷たい潮を好むので小型曳網船の捕獲するオキアミ漁は6月末までである。次に出現する魚はあまり期待できない。オキアミが大漁の年は例年そのとおりなので、暖かい潮が待ち望まれるが、3ヶ月以後になる見込みである。このため、地元全体の水産物取扱業者は何もない状態となり、景気は最悪となる見込みである。
		製造業（電気機械器具）	原油、鉄関係の価格が大幅に上昇しつつあり、製品への価格転嫁を検討する方向である。

(2) 県央地域 【先行き】

(－：回答が存在しない。 ○：主だった回答等が存在しない。)

回答	分野	業種・職種	理 由
良	－		
やや良く	家計	商店街代表者	5年くらい営業していた近くの同業者が先月で閉店した。かなりシェアを奪われていたが、客が戻りつつある。しかし、原材料の値上げで輸送コストの増加を値上げによる価格転嫁ができないのが現状である。
		家電販売店	暑い夏との天気予報とオリンピックの関係で品物が動くと思われる。
	企業	製造業(精密機械器具)	5月の売上げは昨年同月対比で増加しているが、受注は微増に留まっている。現状の営業引き合い状況や、その他の動向を総合的に判断すると、受注の増加を期待したい。
変わらない	家計	自動車販売店	今の現状では変わらないと思う。しいて言えば、サミットが終われば環境への関心が高くなるので、低燃費やハイブリッド車の売れ方が変わるかもしれない。他社に話を聞いてみると、すでに小型低燃費車の売れ行きは良いとである。
		ファミリーレストラン	現状で良くなるような理由が1つも見当たらない。
		タクシー運転手	タクシーの動きに変化がみられない。
		パチンコ店	ほぼ横這いに推移すると見られる。
		理容店	以前は2か月に1回だったが、今は3～4か月に1回とする客が増えている。
		住宅販売会社	景気の見通しが全く読めない。
	企業	製造業(印刷・同関連業)	特に目立つ要素が見当たらない。
		製造業(窯業・土石製品)	受注量・金額とも変わらない。
		運輸業(道路貨物運送業)	原油高が一段と進み、製品単価に転嫁できるか危惧しているようである。
		情報通信業(情報サービス業)	今後、業種を問わず原材料等高騰分の価格転嫁は進むとみているが、それはある程度予測された流れであり、景気も急激に悪化するとは思えない。9月頃までは、現状のままで推移するのではないかと。
	雇用	学校就業関係者	業種によって採用予定人数を大幅に増やしているところもあり、少なくとも来年3月卒業予定者の内定に関しては不安材料は見当たらない。
		求人开拓員	求人を見ると、企業数、求人数ともに微増だが、採用数は増加しており、変わらないように思う。
	やや悪くなっている	家計	百貨店、総合スーパー
百貨店、総合スーパー			ニュース等で見られる価格高騰の波は客に間違いなく影響を与えている。まず値上げ前の購入の増と値上げ後の買い控え、複数の商品ではなく、必要な商品のみの単品購入が目立つ。入店客減に伴う客単価増のため、あまり良い動きではない。現状では「やや悪くなっている」というところで歯止めをしたいところである。
スーパー			価格の上昇、増税による客の買い控えが今後も続いていくと思う。
スーパー			食料品の値上げが今後も続くと思われる。
コンビニエンスストア			消費者心理が悪化する要因が多い。必要なものだけを購入する傾向がより強くなると思われる。
コンビニエンスストア			ガソリン価格の値上げにより、週末に外出する人が以前より減っている。客単価の下落が激しい。客は必要なもの以外買わなくなっている。
専門スーパー			燃料費、食料品等の値上げで財布のヒモが固くなっているような気がする。
専門スーパー			これからも値上げ傾向が続くと思われるので悪化すると思える。資材関係においても、今までの「束」購入から、必要な分量だけの「バラ」購入に変わってきている。
割烹料理店			何においても値上りで、良くなる話はない。
都市型ホテル			レストランの家族利用等が少なくなるような気がする。また、夏場の予約も例年と比べ少なく、この先伸びる感じがしない。
観光型ホテル			ガソリンや食料品の急激な値上げで守りに入りつつある。 年度後半の景気上昇を期待したい。
タクシー運転手			マスコミの過剰報道もあると思うが、ガソリン高や思の他の物価高の影響によりやや悪くなっていると判断される。
観光名所			東京方面からの自動車による来館者がほとんどという状況なので、そろそろガソリン高の影響が懸念される。
レジャー施設			燃料油の高騰により、さらに利用回数が減少する懸念がある。
レジャー施設	来館者の9割は自家用車なので、ガソリン高騰の影響は大きいと思う。魅力ある施設にしないと入場者の減少は避けられないと考えている。		
建築設計事務所	地元建設業者の工事受注残高は確実に減ってきている。このままの状態では7～8月にかけて体力のない業者は淘汰されるおそれがある。		

(2) 県央地域 【先行き】

(－：回答が存在しない。 ○：主だった回答等が存在しない。)

やや悪くなっている	企業	農業関係者	ガソリンや生活物資等の値上げにより悪くなると思う。
		製造業(印刷・同関連業)	原材料費の影響は避けられないが、業種によっては受注が増えている顧客もある。やや悪い状態ながら、数をこなす事により最悪の事態を回避し、しのいでいきたい。この難局を乗り切れば将来は明るいと考えている。
		製造業(金属製品)	製品である鉄骨需要が低迷しているうえ、材料である鋼材が入手難であるため、工場の操業低下に拍車をかけている。
		製造業(一般機械器具)	今年はいつもの伸びが見られず良くはならないと思う。原油、材料、特にステンレス鋼の値上げは止まらない。
		建設業	ガソリンの値上りや鉄鋼材の高騰のほか、政治的対策がとられていない。
		不動産業	分譲マンション等の供給過剰の状態がしばらく続くのではないかと。
		サービス業(広告業)	良くなる材料が皆無である。
		サービス業(コンサルタント業)	仕事先の飲食店においては、食用油等食材の仕入価格の上昇より価格を値上げするところができた。今後客数の減少等売上げに影響することが懸念される。
雇用	人材派遣業	すぐに良くなるとは思えない。	
	求人広告	物価や燃料費の上昇により、人材を減らす傾向にあり、人件費や販促費、広告費等を削減する企業も増え、求人も全体的に少なくなってきた。	
	公共職業安定所	飲食店の(業務拡張による)パート求人、(新規出店する)宿泊業等、新しい求人も多少あるが、派遣、請負及び期間雇用求人が求人全体の2割弱を占める。一方、求職者の多くは、非正規社員から正規社員への移行を期待しており、求人、求職の需給バランスは難しい局面を迎えている。	
悪くなっている	家計	商店街代表者	まだまだ多岐にわたって値上げが予想される。しかし、所得はそれに伴わない。よって、どうしても買い控えが起こる。
		スーパー	原料、原油の値上げにより先が見えない。
		スーパー	物価上昇に伴い購買行動が縮小している。
		農産物直売所	ガソリン価格の値上げで、今より来店者が減ると思う。
		レストラン	郊外型ホテル内のレストランなので、ガソリンの値上げがかなりの影響があると考えている。
		レストラン	ガソリン等の価格の先行きが見えない。今後もっと景気が悪くなっていくだろうという話も聞く。また、原材料等の値上りについても、今後も続くと予想される。
		旅行代理店	原油価格がさらに高騰傾向にあり、また、岩手宮城内陸地震等自然災害の影響も懸念され、夏休みや秋の行楽シーズン中の旅行離れが心配される。
		タクシー運転手	官公庁及び民間会社ともに経費の節減が厳しい状況にあるようである。極度にタクシーチケット利用数が少なくなっており、全般的な県内の経済の上向きは考えにくい。
企業	製造業(食料品)	小麦、穀物価格の上昇による商品の値上げを検討している。値上げにより、消費が落ち込むことも考えらる。	
	製造業(食料品)	原油をはじめとする資源価格が上がり続けている。	
	金融業	今後も諸物価の高騰は避けられず、石油製品及び食料品等の値上げが予想されるも、実質賃金(収入)が伸びず、消費を控えることが予想される。	

(3) 鹿行地域 【先行き】

(- : 回答が存在しない。 ○ : 主だった回答等が存在しない。)

回答	分野	業種・職種	理 由
良	家計	コンビニエンスストア	7月からのタスポ(成人識別カード)導入により、店頭でのタバコ購入者は増えると予想され、これに伴う客数増を期待している。
やや良 く	家計	割烹料理店	店舗の周辺に住宅が次々と建設され、近所の人口が増えているため、客の出入りも多くなっている。
		理容店	3か月後の9月頃は、残暑が厳しい時期なので、髪の毛くらいはサッパリさせようと思う客が増えるので、景気はやや良くなっていると思う。
	企業	製造業(食料品)	中元時期を迎え、荷の動きが良くなると思う。また、7月よりトロール漁が解禁となるので、少し期待できるかもしれない。
		製造業(化学工業)	3か月後には定期修繕も終盤のため、生産も増加し、売上も上がると思われる。
変 わ ら な い	家計	観光型ホテル	予約状況を見ると、現状と大きく変わらないのではないかと。
		タクシー運転手	景気が悪くなって、しかも物価が上がるという二重苦のシステムが当分の間続くと予想される。良くなる理由が何もない。あるとすれば、ガソリンが高くなってマイカーを使うよりタクシー利用の方が安く上がると考える客が多くなればよいと思うくらい。
		住宅販売会社	企業の状況があまり芳しくなく、個人への影響も多々あると思われるため、景気は悪いまま変わらないのではないかと。
	企業	水産業関係者	大きな変化はないと思われる。
		運輸業(道路貨物運送業)	鹿島臨海工業地帯の工場関係では、現在のところ、生産予定には余り変化がないように聞いている。ただ、石油関係の値上がりが心配との声が多い。
		金融業	資材関係の価格上昇により、粗利益が減少し、赤字になるリスクが考えられるものの、大きくは変わらないと思う。
		保険業	色々な物の価格が高くなっている中、9月に収穫される米やサツマイモの価格がどうなるか注目したい。
		不動産業	目立って値上りしているガソリン以外は、値上りを肌で感じることはない。
	雇用	人材派遣業	人材派遣業界においては、一般に操業面では何ら変化は見られないと思う。しかし、原油価格の高騰に伴う諸物価の値上りにより、除々に生活面に影響がでてきていることは耳にする。また、建設関係並びにこれに係る建材関係では、建築確認申請の許認可手続きが大幅に遅れているため、要員確保で労務費が膨れ上がり、経営面を圧迫しているという話である。先のことは見えにくいものだが、原油価格の高騰がこのまま続けば、国民生活に重大な影響が出てくるのではないかと心配である。
	やや 悪 く な っ て い る	家計	商店街代表者
商店街代表者			原材料の値上げ等、この先経費の増加が見込まれ、消費意欲は低下するものと思われる。
スーパー			パン、乳製品、ビール類、麺類等、食料品の値上げが増えている。
スーパー			今後も値上げが予想されるため、売上げもやや悪くなると思う。
家電販売店			消費者の所得は上がらずに、多方面で支出は増えている。先行きの不透明感から、この先も売上げはやや悪くなると思う。
自動車販売店			燃料が高騰し、自動車に乗る人が減っている。
農産物直売所			ガソリン等の値上げによって、マイカーでの買物が減ると思う。客との会話でも「車で出かけるのをちょっと控えないとね」という声が聞かれる。
小売業(金物店)			建設関係の現場が少ないうえに、品物の価格が上がり、売れにくい状況である。販売コストも石油の高騰により上がっている。このような環境下なので、この先も景気は悪くなると思う。
洋食食堂			食材の値上りの先行きが見えない。売上げが変わらなければ、利益の幅がどんどん無くなっていく。
タクシー運転手			原油価格の値上りに伴い、公共料金や食料品等の価格が値上げされては、各家庭でも生活のスタイルを変えざるを得ないのではないかと。
タクシー運転手			原油高の影響が生活に響くと思う。
タクシー運転手			新米収穫の時期だが、物価高で景気はやや悪くなっていると思う。
ドライブイン			ガソリンや食料品等の値上に歯止めがかからないため、3か月先の景気もやや悪くなると思う。
観光名所			周辺でも人々の動きは減少しているようにみえる。日々慎重に出費の選択をしているようだ。
パチンコ店	今後も、身の回り品の値上りは続くと予想され、より出費を抑える傾向が強くてくると思う。		

(3) 鹿行地域 【先行き】

(－：回答が存在しない。 ○：主だった回答等が存在しない。)

やや悪くなっている	家計	パチンコ店	業界全体が右肩下がりになっているなか、話題となる人気パチンコ機種の販売予定も見えていないため、先行きの景気もやや悪くなると思う。
		クリーニング店	物価の上昇は今後も続くと考えられ、経費も一層嵩むと思われる。クリーニング点数が増加する見込みもなく、先行きは現状よりやや悪くなるのではないかと。
		室内装飾業	材料価格の上昇や原油の高騰等で、景気はますます冷え込むと思う。
		住宅販売会社	ガソリンの高騰が止まらないことに加え、物価の上昇もあり、この先も消費は伸びないと思う。
悪くなっている	企業	製造業（飼料）	今のところ、穀物の高騰は当分継続すると考えられ、さらに販売数量は減少すると思われる。
		製造業（化学工業）	原油価格と、それに伴う価格転嫁次第だが、あまり期待は持てないと思われる。価格転嫁による販売量の落ち込みも懸念される。
		製造業（鉄鋼業）	フル生産の状態が続くと思うが、物価上昇の影響がどの程度か予想がつかない。
		運輸業（道路貨物運送業）	新規の話が出てこない。既存の荷主も大口での扱いを差し控えて、必要な在庫だけの調整で展開する傾向になってくるのではないかと。秋口からの展開は思ったほど伸びないと思う。
		サービス業	顧客が昨年度から検討している大型投資がなかなか決まらない。
悪くなっている	雇用	民間職業紹介業	当然のことだが、求職者は非正規社員を望まないし、より条件の良い職種や企業に就職したいと希望する。よって、3か月後も鹿行地域における人材不足は変わらず、マッチングは厳しいと予想される。
		公共職業安定所	原油高騰及び原材料高騰が一段と厳しさを増しており、消費の冷え込みや販売価格に経費の増加分を転嫁しきれず企業の収益環境は悪化しているとの求人者の声を多く聞く。
		学校就業関係者	鋼材や燃料の価格が高騰しているため、先行きはやや悪くなるのではないかと。
		求人開拓員	「現在の物価の値上り状況は、個々の努力の範囲を超えた次次の問題で対応のしようがない。しかも、今後ますます厳しさを増すのではないかと」というのが、求人開拓先の事業所で聞いた声である。
悪くなっている	家計	商店街代表者	物価の上昇は今後も続くと思われるので、売上げは一層減少するのではないかと。
		スーパー	ガソリンや燃料、小麦等の値上りは今後も続くと思われる。既に、消費者の節約は食料品や衣料品から始まっており、今後も売上げには期待できない。
		コンビニエンスストア	原油高による影響は、物価上昇だけに止まらず、消費者の心理にも大きく及んでおり、今後もさらに大きくなると思う。
		小売業（菓子販売店）	やはり、ガソリンの値上げが大きい。
		小売業（薬品店）	原油価格の高騰はまだ続くと思われる。さらに、消費税を始めとした色々な税金の増額も検討されており、この先景気が悪化するのでは明らかである。
		小売業（書店）	原油高に伴い、様々な方面で物価が上昇しているため、趣味にお金を使う余裕がなくなっていくのではないかと。
		衣料品販売店	値上げが止まらないため、買い控えが今後も増えていくと思う。
		スナック	良くなる兆しが見えてこない。町工場等では仕事が無く、給料も貰えず、生活ができない様子なので、ツケも払って貰えない。悪い方へ悪い方へと向かっていっているように思う。
		日本料理店	予約の数は前年と比べ同じくらいだが、前日又は当日の予約が増えた。前もって予約しておくべき接待の予定が減少しているのではないかと。また、予約時に予算を決めておき、「予算額に達したら教えてほしい」という客も増えた。
		観光型ホテル	最低価格の宿泊コースを利用し、飲料等を持ち込む客が増えている。できる限りお金を使わないという姿勢が窺える。石油価格の高騰、物価高の一方で給料は据え置きか減少という状況に加え、社会情勢を考えると、今後景気はさらに悪化すると考えられる。
クリーニング店	原油価格は上昇するが、売上げ、客数は伸びない。また、簡単には値上げもできないため、収益が圧迫され非常に苦しい。		
悪くなっている	企業	農業関係者	生産者は経費ばかりが高み、農業は赤字が膨らむ一方である。これからの農業は、今以上に厳しくなるのではないかと。
		製造業（食料品）	やはり燃料の値上げの影響は大きい。現実問題として石油への依存は避けられず、生産過程のすべてに影響している。原材料に関しても、これから値上げが予定されているものがあり、どれだけ影響が出るのか今後の予想がつかない。
		製造業（印刷・関連業）	見積り依頼も減少している。
		製造業（食料品）	原油高がまだまだ続きそうなので、景気はさらに悪くなっていくと思う。
		建設業	鹿嶋市大野地区の市街化調整区域指定の影響で、都会からの移住者が少なくなっており、移住者用住宅の着工件数が減少している。さらに、地元住民の建築着工件数も減っているため、建設業者の景気はこの先一層悪くなると思う。

(4) 県南地域 【先行き】

(－：回答が存在しない。 ○：主だった回答等が存在しない。)

回答	分野	業種・職種	理 由	
良	家計	農産物直売所	地元産の野菜の品数を増加し、生産者の顔の見える野菜をより多く販売していく。	
やや良	－	－	－	
変わらない	家計	スーパー	ガソリン価格の高騰により、関連商品の値上げも続いており、現状より良くなることは難しい。	
		コンビニエンスストア	大きく変化する要素は見当たらない。	
		家電販売店	例年と変わらない動向が予測できる。しかし、客単価の下落がガソリンの高騰の影響により継続傾向にあるのが気掛かりである。	
		洋食食堂	小麦粉、バター、チーズ、食用油など原材料の値上がりが続いている。当店でも値上げしたいところであるが、現状をみると難しい。	
		洋食食堂	前年の同時期の予約状況と見比べての判断であるが、変わらないと思う。	
		都市型ホテル	今の状況では、現在とあまり変化がないように思われる。	
		旅行代理店	旅客の申込み数は6月との比較では増加はするが、ガソリン価格を含む諸物価の高騰で企業の経済状態は変わらないと思う。	
		ゴルフ場	集中するはずの土曜日・日曜日の予約状況が今一つの動きである。	
		建築設計事務所	今年も同じ状況となりそう。	
	住宅販売会社	金利がどうなるか不透明なため、今よりさらに良くなるとは考えにくい。		
	企業	製造業（食料品）	特に大きな変化を予想できない。	
		製造業（食料品）	景気の良くなる材料は無く、景気の悪い状態で変わらないと思われる。	
		建設業（設備工事業）	客は金は持っているが、年金制度や子供との繋がり等将来への不安があるため、高額の出費を控えていると思われる。また、ガソリン、ガス等の料金がいため電気温水器等の営業をしてきたが、電気料金も高くなるので景気は変わらない。	
		建設業	原油及び鋼材の価格高騰の影響が続く。	
		運輸業（倉庫業）	食料品関連の貨物は増産体制もないので、例年と同じ動きになると思われる。他の貨物も7、8月以降の動きは活発になると予想するが、例年と同じか、または生産体制により減少する可能性もある。景気は変わらないと思う。	
	雇用	人材派遣業	全体としては変わらないと思われるが、業種によって差が大きくなっている。販売業及び自動車関係は好調だが、IT関連は少々頭打ちの感がある。	
	やや悪くなっている	家計	商店街代表者	最近の異常ともいえるガソリンや食料品価格の高騰、さらに政治的マイナス要因（医療費関連など）を消費者は敏感に感じてきており、必要なもの以外に手を出さなくなっている。このような影響が徐々に表れてくるのではないかとと思われる。
			スーパー	当社においては、売上げ、客単価が伸びているものの、穀物を原材料とした商品価格の高騰により、景気は悪くなっていくと予測される。
			スーパー	原材料価格の高騰もあり、日替わり品などの目玉商品を見直さなければならない状況であり、その影響で客数が減ることが考えられるため。
スーパー			物価が上昇している。	
スーパー			約3か月先に大手のショッピングセンターの新規開店があり、自店から約3kmと近いので客数に影響がでるおそれがある。	
コンビニエンスストア			原油を始め、今後多くの値上げが予定されており、客単価の低下によって景気はやや悪化するとと思われる。	
衣料品販売店			現在の原油価格高騰などが収まらない限り、節約優先が続く、衣料関連の景気は厳しいと思う。	
農産物直売所			原油価格の動向にもよるが、商圏の広い当直売所にとっての好材料は見当たらない。	
専門スーパー			夏が過ぎ、秋の始まりの頃から原油高騰や原材料の値上げなどの影響がさらにでてくると思われる。これから夏場に向け食品を始め生活必需品の大半が値上げになる見込みである。中国四川省の大地震の影響や北京オリンピック後の中国製品の値上げも出てくるのではないかと。さらに、暖房の主力燃料は灯油が高い構成比を占めているため、財布のヒモも堅くなり景気は悪くなっていくと考えられる。	
ガソリンスタンド			特に運送業界が厳しい状況にあり、荷主が価格交渉に応じたくない場合が多いとのことである。いわゆるサーチャージ（原油価格の上昇等の特別な事情が発生した場合に追加費用を補填するために航路各社が課する割増し料）のような制度を確立しないと、倒産する業者が増えるのではないかとと思う。	
都市型ホテル			当店も多少値上げしている商品があるが、リピーター客は細かな部分も指摘してくることもあるため、このままでは安価な店舗に客が流れてしまうおそれを感じる。	

(4) 県南地域 【先行き】

(－：回答が存在しない。 ○：主だった回答等が存在しない。)

家計	旅行代理店	伸びを期待するが、燃油等価格上昇との関係で、国内・海外ともに厳しくなっている様子が想像される。
	ゴルフ場	平日の大型コンペなどについて値引きを強く求められることも多く、予算を絞ってきている。
	パチンコ店	良くなる見通しが全く立たない。
	ゲームセンター	地域柄か自動車での来客者がメインになっている。ガソリン価格の上昇で来店を渋っている様子である。客単価は多少上昇しているものの、来客数は減少している。
	美容室	地元の中心市街地のマンション等に転入してきた新住民の来店を期待しているが、マンションについては不動産会社などによる投資目的のための購入者が多いようであり、新規入居者の来店については不透明である。
企業	製造業（食料品）	物価の高騰が続く限り同じ傾向であると思う。
	製造業（飲料）	原油高の影響による物価高に加え、給料の増加も見込めない。
	製造業（窯業・土石製品）	原油価格の高騰等がいつまで続くか先行きが不透明であり、景気を取り巻く環境は一層厳しくなると思われる。
	製造業（一般機械器具）	原油価格、原材料価格の高騰が続いていると思われる。
企業	建設業	民間では大、中、小規模のいかんを問わず3社競争となり、受注先が決まるまで2、3か月かかることがざらになっており、3、4か月先の見通しが立たない。また、官公庁からの公共事業の入札指名はほとんどなく、昨年以下となる見込みである。
	建設業（設備工事業）	ハウスメーカーの進出により、地元工務店では一般住宅の新築工事が減少し、売上げ減少、経費増大の傾向になると思われる。
	金融業	政府による景気回復のための具体的な政策が打ち出されていないので、悪くなるように思われる。
	不動産業	広告等の反響が悪くなっている。価格デフレにより客単価が低下している。
雇用	求人広告	物価上昇が続く以上、人件費等で経費を削減するしかない。物価が低下しない限り景気は良くならない。特に運送業界からは厳しいとの声が聞かれる。
	公共職業安定所	雇用動向は景気の変動より数ヶ月遅れることから現状を維持できない場合、落ち込むことが考えられる。
	学校就業関係者	新規の求人企業からの問い合わせが3か月前に比べ増えている。また、昨年度と比べて求人が増えてきているため。
	雇用相談員	消費者にとっては食料品やガソリンの値上げ、企業にとっては原材料の値上げ等により景気の悪化が懸念される。企業を回っても、先行きを心配する声を聞く。
家計	自動車販売店	今後も原油高が続き、燃費の悪い普通自動車の売れ行きが伸び悩み、燃費の良い軽自動車の需要が高まると思われる。
	和食食堂	物価上昇が続いている。食料不足など危機的な感じが日本中にあるように思う。
	寿司店	物価の値上りや（価格は変わらなくても）品物の容量を少なくして実質的に値上げをするといった話ばかりで景気の良い話はほとんど聞こえてこない。市場でも微妙に値上りがある。
	タクシー運転手	地域において良くなる要素は皆無である。このままでは、より生活の緊縮が余儀なくされる。
	レジャー施設	後期高齢者医療制度、ガソリン等諸物価の値上げがあり、レジャーに金を回すとはとても思えない。
	美容室	原油高騰はますます進むようであり、物価の上昇により生活費が圧迫され、消費が抑制されると思われる。
企業	農業関係者	これから夏に向け、旅行やレジャーシーズンとなるが、遠くへ旅行する企画が少なく、旅行センターへの問合せも少ない。
	製造業（食料品）	より安全・安心な商品作りに健康的な商品製造が加わり、客の商品に対する要望は細かくなっている。今までのようなやり方(運用)では利益が確保できない。今後も大変厳しい状況が続くと予測される。
	製造業（印刷・同関連業）	ガソリン価格や諸物価の値上げが続き原材料費がまだまだ値上りするように思う。
	製造業（窯業・土石製品）	鋼材、セメント、石油製品関連製品の値上げを要求され応じざるを得ない。ガソリン、軽油の値上げによる運送費の値上げ要求を飲まざるを得ない。鋼材類と燃料油は公共事業の単品スライド条項（工事等の発注後に資材等の価格が著しく変動した場合に、契約金額の変更を可能とするもの）が適用されると報道されているが、コンクリート製品には適用されることは難しい。
製造業（非鉄金属）	3か月受注インフォメーションでは対前年比5%程度の増加を予想している。しかし、原材料費、燃料費等の値上りが顕著であり、その他の生産に必要な物に対しての値上げの要請が強いが、価格転嫁は難しい。加えて、大手メーカーからは経費の引き下げ要請もあるため、夏のボーナスカットや人員削減等を避けて通ることができなくなる可能性もある。	

(5) 県西地域 【先行き】

(－：回答が存在しない。 ○：主だった回答等が存在しない。)

回答	分野	業種・職種	理 由
良	企業	製造業（金属製品）	新規の仕事の引き合いも多く、受注件数、数量とも増加しているという現状はしばらく続く見通しである。
やや良くなっている	家計	タクシー運転手	今月があまりにも悪いので、これが戻れば通常並となる。ここ数年同じような傾向が続いている。
		パチンコ店	7月の下旬に話題性の高いパチンコ機種が導入される予定があるため。
	企業	製造業（化学工業）	例年第2四半期が伸びているので、期待も込めて上向くと見ている。
		製造業（窯業・土石製品）	当社は業者卸の石材加工メーカーだが、最近、取引先の小売店において他店との差別化を図るために、取扱い品の比重を価格の安い中国製品から質の高い国内製品へと移すことを考えているところもあり、今後、自社を含め国内加工メーカーの必要性が高まるのではないかと期待している。
変わらない	家計	商店街代表者	物価は高止まりで落ちついてくるだろうが、所得が増える要因が見当たらないので購買意欲は弱く、景気は変わらないだろう。
		コンビニエンスストア	必要な物だけを選んで購入しようとする購入の仕方は最近急に始まったものではない。
		コンビニエンスストア	毎年、季節的に県外からの客が増加する時期であるが、現在の原材料、物価高騰のあおりを受ける可能性が大きい。
		専門スーパー	3か月前と比べ変化がない。
		和食食堂	7月、8月は夏祭り等イベントがあり、客足もやや伸びると思うが、現在のような物価の高騰が続けば客単価や利益率に影響するので、変わらないのではないと思う。
		都市型ホテル	9月頃はまだ暑い時期で、客の動きも鈍く、変わらないと思う。
		多目的ホール	例年、夏の企画を準備している。今のところ予約状況は順調だが、天候に左右されるので、厳しい状況と見ている。
		タクシー運転手	今の状況では先が見えない。
		ゴルフ場	2か月前までの予約状況から変わらないと思う。
		理・美容店	いろいろと値上りしているので節約をしている人が多いため良くはならないと思う。原油高がなくなる限り景気が良くなっていくのは難しいと思う。
		建築設計事務所	低迷が続いている景気が良くなるためのきっかけは見つかりそうもなく、当面この状況が続くと思われる。また、今後も原油が値上りする様子なので、建築業界や多方面への影響は大きいと思われる。
		住宅販売会社	見通しがなかなか立たない。
	企業	農業関係者	直売所でイベントを開催し、販売高の増加を計画している。8月～9月は秋の果物（梨、ぶどう、アールスメロン等）、9～10月は新米の販売等を行う予定である。したがって、直売所での客単価、利益率は増加傾向となる見込みである。しかし、生産資材のコストの増加や、増加したコストの販売価格への転嫁が見込めない。
		製造業（食料品）	現状が好転する要素はあまりないと思われる。
製造業（印刷・同関連業）		努力そして努力と頑張っているが、諸物価の高騰で間に合わない。価格を上げようにも同業他社との関係でなかなか踏み切れない。ガソリン代の値上りをはじめ、世の中の変化に対応できない企業、個人が多いのではないかと。	
製造業（窯業・土石製品）		あまり変化はないのではないかと。	
金融業		原材料価格の高騰が続いている反面、急激な販売価格への転嫁は難しく、当面は厳しい状況が続くと思われる。設備投資の資金需要の伸びは今後しばらくは望めないと考える。	
やや悪くなっている	家計	スーパー	食品の値上げ等が順次実施されているので、買上げ点数はさらに低下するものと思われる、ガソリン価格の値上げ等で食費を切り詰める傾向がでてくると思う。
		スーパー	スーパー同士の競争が今以上に激しくなること及びどうしても価格を上げなければならない分野があり、その分野の商品について客の買い控えが起こる可能性があることから、売上げ増はそれほど見込めないであろうと予想している。
		家電販売店	8月に北京オリンピックがあるので、それによる特需が見込まれ、家電業界は景気は上向き傾向の予想だが、5、6月の状況から考えると、衣食住にかかる物価の値上げ等から、娯楽的な家電の需要は停滞しそうな勢いである。
		自動車販売店	景気はまだまだ後退しそうである。したがって、販売台数も減少する予想である。
		和食食堂	最近はお前の回数が増え、客単価も低下している傾向が見られるので、3か月先は売上げが減少しているのではないかとと思われる。
		和食食堂	客数が減少してきている。
		旅行代理店	原油・原料高の影響で、客の商売にも影響があるようで、旅行の実施を渋る経営者多い気がする。

(5) 県西地域 【先行き】

(－：回答が存在しない。 ○：主だった回答等が存在しない。)

やや悪くなっている	家計	タクシー運転手	食料品、生活用品等の高値の原因といわれている石油、小麦等の価格高騰やその他の不安が解消されない限り現状が上向くとは思えない。
		ドライブイン	夏休みの後なので、大幅な客数、客単価の増加は望めない。
		ドライブイン	原油高によるガソリンの高騰、また原材料費高騰による商品の値上げが7月以降も予定されており、3ヶ月後の景気は現状よりやや悪化すると感じる。
		ゴルフ場	原油高、原材料高の影響が徐々にできてきているのではないかと。顧客の個々の来場回数が減少しないか心配である。
		ゲームセンター	常連客の来店日数の減少、家族連れの来店の減少が考えられる。
		レジャー施設	これからも物価の上げどまりが予測出来ないで良くなる要因が見当たらない。
悪くなっている	企業	農業関係者	生活物資が高騰しており、消費拡大には向かっていかない。
		製造業（電気機械器具）	来客者との雑談のなかで、物価高による影響が出始めている。
		建設業	政治の空洞化、ガソリンの値上げ、医療問題と問題が山積しているが解決の意図が見えない。
		運輸業（道路貨物運送業）	燃料費の値上りのため。
		不動産業	賃貸物件の賃貸料単価が下がってきている。
		サービス業（コンサルタント業）	今後も石油製品を中心にした価格高騰に歯止めがかからず経費増加の傾向が続くと思われる。
		公共職業安定所	新規求人数、有効求人数が減少傾向にある。
悪くなっている	雇用	学校就業関係者	ここ数年鋼材の値上りは続いている。業者は、北京オリンピックの影響で今年いっぱい値上がりが続く予想している。さらには、上海万博も控えており今後の見通しもあまりよいとは考えていない。
		就職相談員	訪問事業所では景気に良い話題はなく、先が不安という声が多い。
悪くなっている	家計	商店街代表者	良くなる要因が全くない。
		スーパー	物価が上昇するが収入は変わらないため、消費は減少していく。
		衣料品販売店	年金、後期高齢者医療制度等先行き不安なことばかり。また、原材料価格の高騰、ガソリン価格のさらなる値上げ等、消費を抑える悪材料が多く、景気が良くなることは見込めない。
		農産物直売所	物価上昇が続きそうである。
		ガソリンスタンド	中国、インド等の新興国の経済成長が続く限り、原油、食料、金属等が品薄になり、輸入に頼る日本は物価の上昇が避けられない。
		和食レストラン、割烹	政治的な不安定さが消費者に影響を与えている。ガソリン価格のさらなる値上げ等があると思う。
		理容店	ガソリンの値上げがかなり響いてくると思う。
悪くなっている	企業	製造業（食料品）	食料品等の価格の上昇について、マスコミで毎日のように報道されている時節であるので、消費が落ち込むを思う。
		製造業（印刷・同関連業）	材料の値上り分を価格に反映できる見通しが立たない。

Ⅲ 景気の判断コメント — 3 その他の意見

(1) 県北地域

分野	業種・職種	その他の意見
家 計 関 連	商店街代表者	少子高齢化で地域全体が将来に対して不安を持っている。殺伐とした世間で、事件も多発している。
	スーパー	安いチラシ商品のみ購入する客、売価にはこだわりのない客、年中行事の際には売価に関係なく購買意欲が湧くが、平日は贅沢をしない客が増えている。
	スーパー	客の店内での買い回り時間が短くなっている。客単価低い。7月からタスポ（成人識別カード）が導入されるが、これにより自動販売機でのタバコの売上げが大きく減少するものと思われる。一方、タバコのバラ売りを行っているコンビニエンスストアでは売上げは増加するのではないかと。
	コンビニエンスストア	最も生活に関わることではガソリン高騰の影響が大きい。実際に自動車の利用を控えて自転車での通勤手段に変えている人、燃費の良い自動車を週末に使っているケースを身の回りでも頻繁に聞くようになった。
	コンビニエンスストア	価格上昇に伴う消費行動の変化、コンビニエンスストアは価格が高いという認識が少しずつ減り、主婦を中心とする女性の来店が増えている。
	衣料品販売店	将来に対する希望、夢が持たなくなってきた。また、近くで、後継ぎがないため閉店となったところが何店かできてきている。さらに、今の景気の現状をみると、茨城に空港が必要か疑問がある。
	衣料品販売店	原材料高の影響により、これからの客足の減少が心配である。
	家電販売店	客の売価調査が厳しくなっている。複数の販売店を調査して最安値の店で購入する傾向がさらに強くなった。
	農産物直売所	鮎釣りが解禁となり、土曜日、日曜日は多くの釣り人で賑わっている。
	ガソリンスタンド	土地取引が動いているような気がするが、いずれも競売価格並みである。
	小売業（酒類）	近隣の飲食店では多人数での宴会が減少している。若い人達のアルコール飲料離れも目立つ。
	小売業（水産物）	客の1回当たりの購入点数や購入金額が下がった。中国産商品は売れないため、販売を取り止めた。
	小売業（靴製品）	ブランド志向であるが、安く買いたい人が多いので大手の事業者等のインターネット販売が良好である。インターネット販売で買う若年層が多くなってきたので店売りが低迷化していると思われる。
	レストラン	県央、県南は良く分からないが、県北（特に日立市）は定年退職された方が多く、活気がないように思う。
	居酒屋	閉店してシャッターが閉まったままの店舗が目立つようになってきている。
	居酒屋	良い話がない。
	スナック	顧客等で新車を買う人が多いのでボーナス等も上がっているのではないかと。
	観光型ホテル	格差が感じられる。
	観光型ホテル	ガソリンが上がったため、サービス業は影響がかなりあり、今後も続く気がする。
	観光型ホテル	社員の間でもガソリン高、物価高の話題が多いように感じる。家族旅行や外食を控えて家計をやり繰りしている人が多いようである。
タクシー運転手	ここ最近では、地元企業で深夜残業をする従業員がかなり少なくなったようであり、それに伴いタクシーの利用客が減少し、売上げも減少している。聞いた話だが、過労死を回避するために、多くの事業所等で深夜残業は極力させないという動きになっているとのことである。	
ドライブイン	ガソリンは少しでも安いスタンドで給油しようと皆リサーチを怠らない。遠出は控えてると聞く。	
ゴルフ場	今春に入り、アメリカのサブプライムローン問題を耳にする中で、不安を持ちながらも来場者も多くなりつつ明るい話題もぽつぽつと聞くようになり、多少なりとも期待感を持ってきたが、原油高騰に伴うガソリンを始めとした多くの商品の連鎖的な値上げにより家計が圧迫され、そのことが今後どのような影響をもたらすかが気に掛かる。近隣の個人経営レストランのコメントだが、「今までは、女性の方の来店が多かったが、最近少なくなる傾向のように思われる」とのこと、交通費をかけた来店は控え気味なのではないかと。	
ゴルフ場	料金に特に敏感である。例えば、軽食サービスで客から「いらないから、その料金分を引いてくれないか」という声がかかる。他コースの料金を2～5例を引き合いにだしたうえで値下げの要請ができることもある。原油等の高騰で乗用カートの燃料が値上がりし、苦慮している。	
レジャー施設	来園者の95%が自動車で来園する施設にとって、昨今の原油高の影響は大きく、一般客の来園に足枷となっている感が拭えない。	
ゴルフ場	最近の傾向として、予約受付時に料金の値引きを申し出る客が増えている。また、バス利用によるバックプランに関する問い合わせも増加している。	
美容室	ここ最近、工場や店舗があつという間になくなり、空地が増えている。	
美容室	地元で大型のショッピングセンターが開店したが客足が伸びないとのこと。同種の店が数店あり、人口増がないと客の取り合いになるだけと思われる。	
クリーニング店	原油高によるガソリン価格高騰のため、毎週金曜日の夜はガソリンスタンドで給油する車両で道路が渋滞する。	

(1) 県北地域

企 業 関 連	林業関係者	本年度から「森林湖沼環境税」が導入されている。森林整備が進み健全な森林資源の維持造成を推進することが期待される。
	水産業関係者	燃料油の高騰は行政の指導が役に立たないほど急上昇している。宮城県等では、8月に全船休漁する等の行動に打ち出しているが、全国一斉にはまだ行っていない。当方の旋網船又は県内の底曳船等はそのままでも採算内にあるからである。ただし、このまま燃料油がさらに値上り続けば他県の漁業のことと言ってはられない。身の回りの水産業にあつては景気は悪くなる一方である。
	製造業（食料品）	原油高騰による燃料費、食料品、野菜等への影響が私生活にまで大きく及んでいる。
	製造業（一般機械器具）	鋼材、紙の値上りにより売価への影響が出てきている。多少の買い控えも生じる。
	製造業（電気機械器具）	異業種も含め、材料ストップ高で止まる傾向にある。日本経済の先行きの不透明さを痛感している。
	製造業（電気機械器具）	ガソリン・食料品・ガス・電気・鉄に関する物等々の値上げにより、人が長い年月を経て築き上げた技能でつくりだす技・加工賃が圧迫を受け被害を受けている。無駄な購入を控え、無駄を徹底排除・節約＝景気も地球環境保護活動・エコに良く似ているように感じる。
	製造業（電気機械器具）	ガソリン価格の高騰により、生活必需品である食料品や衣料品の価格に波及し、家計が厳しい。G8の財相会議で決議したとおり、ガソリンが適正価格になることを希望する。
	製造業（電気機械器具）	社内旅行その他のいろいろな行事を取りやめる会社が多くなった。
	製造業（電気機械器具）	原子力関連の案件が動き始めた。また、輸出案件（中国）も増える傾向にある。
	製造業（輸送用機械器具）	代替エネルギーの進展に伴い、穀物を原料とした食料品の値上げや、保険料の負担も増える等収入が増えない中での支出が拡大し生活への不安が消費意欲をますます低下させている。
	情報通信業（情報サービス業）	客離れを抑えるために、いろいろなサービスを行っている店が目につくようになってきた。
	金融業	日立市役所の近隣にて土地区画整理事業が行われている。また、駅前周辺に数棟のマンションが建ち始めている影響もあり、不動産売買が少ない様子である。
	不動産業	日立地区においては弊社のスポーツジムをはじめ健康増進施設の人気が出ている。個人の価値観が不動産・自動車等からより身近な部分への投資が進んでいるように感じる。
雇 用 関 連	人材派遣業	食料品や生活用品の値上りで買い控えをしている（本当に必要なものを必要量だけ購入）。今後も消費が落ち込み、景気は悪くなる。
	求人開拓員	燃料費高騰のため、バスの運賃を上げたいとの話を聞いた。

(2) 県央地域

分野	業種・職種	その他の意見
家 計 関 連	商店街代表者	道路特定財源問題に関してのガソリン価格の変動による騒動をみてもわかるとおり、消費者においては特に日用の消耗品については価格に対して非常にシビアになっている。富裕層といわれる人々においても生活必需品に対しては同じであるが、限られた特定の耐久消費財に対してはお金を使うという感じがする。
	商店街代表者	商店街で6月7日にイベントを開催したところ、外来者も多く大変賑わい、当店も来店客が増えた。統計を取っている店舗においては、通常の2倍の来店客があったと報告があり、イベントや催事を行うと来街者が増える。商店街では毎月くらいにイベント、催事を行っていく予定である、花壇の植替えもしており、客の評判も良い。
	百貨店、総合スーパー	最近の弊社データを見ると、目的買いの客が増え、時間浪費型の客が減った感じがある(郊外店舗で駐車場無料や公園、イベント等でお金を使わず時間を使う施設に人が流れるためか?)。給料が上がらず、物価(特に生活必需品)高騰の歯止めがきかない現状では消費者の意識も‘物欲’に対する‘我慢’が生じていると思われる。今後も当分の間、このような厳しい状況が続くか。さらに悪い状況になるのではないかと懸念している。
	スーパー	原産国表示、輸入品に対して過敏な反応がある。
	スーパー	割引デーでのまとめ買い傾向がでている。米の売上げが増えている。弁当用の冷凍食品の売上げは回復傾向にある。
	コンビニエンスストア	スーパーの日用品価格、パン屋さんの商品、光熱水道費がいずれも上昇した。
	自動車販売店	建設・土木・設備関係の会社訪問から、人員や自動車を減らす等、企業縮小の傾向がみられる。
	農産物直売所	原材料の高騰により、利益率が悪化している。
	専門スーパー	ガソリン値上げの影響か、自転車の動向がよい(身近な買い物は自転車でという考えか?)
	レストラン	消費者の消費控えがかなり感じられる。アンケートの集計では、外食利用回数は、前年の平均5.6回から今年は3.1回へと約45%減少した。
	レストラン	企業倒産が相次いでいる。それらの影響も今後ますますでくと考えられる。
	ファミリーレストラン	来客頻度が少なくなっているように感じる。
	割烹料理店	仕入れするものすべてが値上りし、中小企業はとても厳しい。だからといって、料金に価格転嫁すれば客は遠のいていってしまう。
	都市型ホテル	ガソリンや食料品等の値上げがいつまで続くか不安がある。
	観光型ホテル	スーパーやコンビニの品物の値上りが目立つ。生活関連商品が上がるとレジャーは余分な出費とみなされそう。
	旅行代理店	嫌な事件、事故が立て続けに発生しており、世情不安も多かれ少なかれ景気動向にマイナスに作用していると考えられる。
	タクシー運転手	身の回りからも景気の回復は感じられない。
	タクシー運転手	燃料費、食料品の値上げに伴い、他の消費には経費を回せないとよく聞く。
	タクシー運転手	ガソリンの値上りにより、消費を抑えるしかないという方が多い。タクシー利用の減少から、カラオケ店、ファミリーレストラン等への客足が少なくなっているようにみる。焼き鳥屋に行く回数を月1~2回減らしたサラリーマンもいる。
	ドライブイン	借楽園という場所柄、観梅期間中と比べ、花のない時期はバス等で訪れる団体客が少ない。スーパー等で小麦やパンが値上り、またガソリン等も上がっているの、物価高を痛感している。
	ゴルフ場	原油高が続く中で原材料費の高騰が始まりコスト的に厳しさが増している。
	レジャー施設	物価高の傾向で、レジャーの出足が悪くなると懸念する。
	レジャー施設	入場者は減少しているが、土産品の売上げは好調である。また、入場者が特定日に集中する傾向にある。
理容店	若年層の閲覧を期待し、インターネットに店舗情報を載せたが、思ったほど客が増えていない。カード利用等、来客対策を模索している。	
建築設計事務所	ハウスメーカーに仕事を奪われ、地元工務店の住宅の受注は年に2~3棟がやっとなこと。また、一人親方の大工さんは年に1棟もとれず、メーカーの下請けにならざるを得ない状況である。	
企 業 関 連	製造業(食料品)	身の回り品の値上りが激しい。買い控えをせざるを得ない。
	製造業(印刷・同関連業)	報道のとおり、ガソリン高のため安値のセルフ式スタンドに一時集中しているのを見た。バターについて、社員の主婦たちは品薄のような事は言っていたが、バターを使わない者にとっては不要なものであり影響は限定的か。
	製造業(窯業・土石製品)	ガソリンが高い。製品の値上げを検討している。
	製造業(金属製品)	計画されていた(マンション、店舗、工場)建築が、立ち消えになるケースが多数見受けられる。景気は後退局面に入ったと実感する。
	製造業(一般機械器具)	何か景気の頂点を打った感じである。半導体も良くない。従業員の一人が自動車を買って替えたが、今までより小さな車になった。

(2) 県央地域

企 業 関 連	製造業(精密機械器具)	原油や鋼材価格等の高騰により、仕入れ資材の値上げ要請件数が多くなっている。ケースバイケースで対応しているが、主要材料費の上昇は避けられないと思う。
	建設業	物価が高く、賃金の伸びが停滞している。
	運輸業(道路貨物運送業)	中高年が手軽に行けるハイキング、写真撮影会等健康と趣味を両立しているようである。服装等もカラフルである。
	情報通信業(情報サービス業)	小売店を覗いていつも感じるのは、若い購買層が、自分が欲しいと思ったものには価格等はあまりに気にせず、クレジット等を利用して購入する姿である。今騒がれている格差社会とは無縁の世界であり、頼もしさや後の心配を感じた反面、これが現代に生きる若者達の一般的な姿かなと思った次第である。
	金融業	最近特に感じる事は、休日や連休でも昔ほど車の混雑が見られず、スムーズに車が流れること。これも少子化に依るものなのか、近隣の観光地は閑散としていて、消費もあらゆる面で抑制しようとしていることがうかがえる。
	不動産業	物価の上昇等懸念することの多い中、景気後退の不安を感じる。
雇 用 関 連	サービス業(コンサルタント業)	全体的には景気は良くないものの、中には新規出店や新しい設備の導入等の動きが見られる。厳しい経営環境だからこそ逆にチャンスととらえ、積極的な設備投資を行っている経営者もいる。
	公共職業安定所	平成20年3月卒の高校求人は、4月末で1,472名分で、求人倍率1.46倍、就職決定率は98.1%(前年99.3%)となった。新規卒者の求人受理説明会を6月2日に笠間所、6月5日に水戸所を実施。参加事業所数は合わせて258社(前年255社)で前年より3社増となった。
	学校就業関係者	本年度は従来ならば追加募集しないような大手企業で追加募集しているところもある。複数の内定先を抱えたまま決めかねている学生も少なからずいるので、秋には意外な企業の追加募集の第二弾が来るのでないかと思われる。
	求人開拓員	食料品、ガソリン等諸物価の値上りにより、消費が冷え込んでいることを願う。

(3) 鹿行地域

分野	業種・職種	その他の意見
家 計 関 連	商店街代表者	今年も減反政策の影響や燃料費の高騰、資材の値上り等により、農業者や漁業者の消費が冷え、500円硬貨を小出しに使う人が増えている。店舗のレジでも、札ではなく、1円や5円等の硬貨が多く集まる傾向が伺える。このような不景気な中ではあるが、日本は明治期からの迅速な技術立国化を成した国なのだから、国内後継産業の育成と同時に、世界に先駆けて徳育（知恵・仁愛・勇氣）の手本を振興するべきではないか。
	商店街代表者	昔から営業していた小売店の廃業等、まだまだ零細店舗は淘汰されるのではないか。
	商店街代表者	物価の上昇により先行きが見えず、買い控えによりますます消費が減る。堂々巡りのような気がする。
	スーパー	ガソリン価格の上昇はびっくりする程である。今後も更なる値上げがあるようなので、周囲の人達も価格の動向を気にしている。
	スーパー	チラシの目玉商品しか買わない客が増えている。
	コンビニエンスストア	消費者は非常に敏感に価格に反応している。
	家電販売店	ガソリン価格の高騰に伴い、自家用自動車の使用頻度を減らしたという客の声を多く聞く。
	自動車販売店	小さな店はシャッターを下ろし、大きなチェーン店ばかりが出店しているのが目立つ。夜の街では安価な居酒屋の看板が、娯楽産業でも安い金額で遊べる店が多くなった気がする。
	小売業（金物店）	最近、仕入商品の価格が値上りしている。鉄工二次製品等は仕入値が常に変動している。
	スナック	ガソリンが高くなってしまったので、以前より自動車に乗らなくなった。まして、タクシー等はなるべく使わないようにしている。一方で、市県民税等が高くて目を剥いている。こんな状況なので、余計なものにお金を使わない方向へ行っていると思う。
	洋食食堂	先月、老舗のガソリンスタンドが閉店した。時代の変化や流れが早すぎて、経営の環境はますます厳しいものになっていくと思う。時代の変化に対応すべく更なる「学ぶ姿勢」の間われる時となりそうだ。
	割烹料理店	物価が上がっても、必要ならば消費者は買い物をするし、外出もする。物価が上がって大変なのは経営者である。消費者の動向は今までとあまり変わらないと思う。
	日本料理店	大手チェーンの居酒屋や回転寿司の新規出店が相変わらず目に付く。消費者のニーズが依然としてそこに集まっていると感じる。
	タクシー運転手	最近、新しい客が少し増えたように思える。当社は今回運賃を据置いているので、値上げを回避した客がこちらにシフトしたこともあると思う。逆にいえば、少しでも家計の出費を抑えたいということであろう。ガソリンの値上げに始まり、食料品の値上げラッシュでは出費を防衛しようとするのは当たり前で、今後も景気に良くなる展開が感じられない。
	タクシー運転手	ガソリンが高いというが、1人1台自動車を所有している現状が恵まれ過ぎており、もったいないと思う。
	タクシー運転手	飲食街で深夜1時30分を過ぎるとピタリと客足が止まることが多い。
	ドライブイン	穀物等の原材料が値上りしているため、様々な商品の値上りが続いている。
	観光名所	石油関係商品の価格上昇に伴い、仕入を含めたあらゆる場面で値上げを訴えられている。取引相手の状況を見て対応して行かなければならないと思っはいても、現状ではなかなか難しい。
	理容店	このところ、ガソリン価格の高騰が続き、景気も以前に比べ低下しているようだ。理容業界も不景気になっている。客数は変わらなくても、散髪のサイクルが長くなってきている。1年間トータルの売上げが、前年に比べ低下している店舗もある。
	クリーニング店	他の業種でも、クリーニング業界と同様、仕入れ価格は上昇するが売上げは伸びていないとのことだった。
クリーニング店	外食を控え、なるべく家で食事をする人が多くなってきている。値上りのせいなのだろう。また、天気が悪いので、日照不足でタバコの葉やトマト、ジャガイモ等に病気がでているようだ。	
室内装飾業	地域によっては仕事が動いているという話を聞くが、受注先の工務店では閑古鳥が鳴いている状態である。	
企 業 関 連	製造業（食料品）	消費者に購買意欲が感じられない。
	製造業（食料品）	地方の特徴を出した商品を作ることで、遠方からも買いに来て貰える。また、インターネット販売も伸びている。
	製造業（飼料）	エネルギーコストが増大し、その回収が困難な状況になっている。
	製造業（化学工業）	石油や食料品等がどんどん値上げされ、生活が圧迫されつつある。他の部分で節約をし、生活を維持している。今後も値上げが続くのか気になる。
	製造業（化学工業）	取引先によると、全体的に新規の投資・開発が減り、修繕的な仕事が増えているそうだ。
製造業（鉄鋼業）	ガソリンや穀物価格の高騰により、気分的にも不景気となり、消費行動にも影響が出てくると思う。	

(3) 鹿行地域

企 業 関 連	運輸業（道路貨物運送業）	先日タクシーに乗り、運転手と世間話をしたが、初乗り650円、660円の会社のほか、新規で590円の会社が出てきたとのこと。この時期にまだ値下げ合戦をしているのかと驚くと同時に、大変な時代だと肌身で感じた。
	運輸業（道路貨物運送業）	ガソリンや燃料の値上りについて、関係者からは、「先行き上がりはすれど何時落ち着くのか」、「この先価格は下がるのか」、「先行きが全く不透明」との声が聞かれる。企業経営にとっては大きな不安要素である。
	金融業	今後の仕事の先行きに不安を感じている経営者が増えている。
	保険業	旧大野村地区に所在する15軒の個人ガソリンスタンドでは、経営が苦しくても辞めるに辞められない状態らしい。ガス販売をしている4店はやや良い方とのことだった。
	不動産業	当店の景気の状態自体には変わりはないが、当店の周辺地域では、住宅用地を探している方がまだ多数いるという有り難い状況である。最近また新しいチェーン店が2店舗オープンした。個人の居酒屋もオープンし、連日盛況のようである。きっと安くて美味しい食材とお酒があるのだろう。
	サービス業	産業分野によっては、今年度の投資を延期したり、中止したりする動きがみられる。
雇 用	公共職業安定所	新規学校卒業者を対象とした求人受理説明会の参加事業者は、対前年比14.4%増加しており、来春の学卒採用環境は良好である。
	求人開拓員	物価が上がり、生活費が足りないので、仕事の合間に出来る内職がないかとの問い合わせがある。

(4) 県南地域

分野	業種・職種	その他の意見
家 計 開 連	商店街代表者	様々な業種の人達と話をすることが多いが、好況を感じている人は皆無である。
	スーパー	原油価格高騰により、低燃費の自動車に買い替える人が増加している。
	スーパー	競合店を回ると、曜日別のカテゴリ別売が盛んになっており、お客もシビアに店選びをしているように感じる。
	スーパー	エコロジーに対する関心が増してきており、マイバックの利用率が増加している。また、トレイや牛乳パックの回収も増えてきている。
	スーパー	特売品など安い商品の売行きが良く、日替わり品に食用油が入ると特に来客数が増える。また、エコ活動の取り組みが見られ、ギフトの簡易包装、マイバック・マイ箸活動が増えている。
	コンビニエンスストア	プライベートブランド商品の品揃えを拡充したこともあるが、以前はスーパーなどで購入されるケースが多かった水物、パン、調味料などの販売前年比が良くなっている。ガソリン価格の高騰により、価格があまり変わらないなら近くの店で購入する客が増加している。そのことにより、コンビニエンスストアの商品について、特にプライベートブランド商品はスーパーより安いかあまり変わらない価格で品揃えしていることを認知してくれる客が増加している。
	コンビニエンスストア	価値を感じるものであれば消費する動きがみられる。
	家電販売店	様々な物の値上り等により、客は購入に関して慎重であり、買い控えの傾向がみられる。
	自動車販売店	贅沢品への消費が低迷している。また、余分な車両は売却されており、普通乗用車から軽自動車への代替が見受けられる。
	農産物直売所	景気の良いときは1万円札での支払いが多かったが、現在では小銭での支払いが多くなった。
	専門スーパー	つくばエクスプレス沿線や県南地域の分譲マンションの売れ行きが鈍化しているようである。昨年までは、好調と聞いていたが春頃から厳しいとのことである。また、守谷地区のショッピングセンターのテナント撤退が増えているとのことで、景気の鈍化は進んでいるように感じられる。(オーバーストア状態なので厳しいのは確かである。)
	ガソリンスタンド	つくば駅周辺の開発が急激に進んでおり、マンションが立ち並んでいるが、一歩中に入ると全く開発が進んでおらず、差を感じる。また、土浦では大型店のオープンが約1年伸びたため、市内の商店は辛うじて運営しているが、オープンしたら市内の商店はどうなるのかとの声が聞こえてきている。
	洋食食堂	最近、クチコミにより映画やドラマ撮影のロケ弁当やケータリングの仕事が入るようになった。利益率は低いが有り難いことである。
	洋食食堂	地元近くの大型ショッピングモールでは出店して数ヶ月テナントが脱退するなど大変な様子であるという声が聞こえてくる。友人の歯科医の話では、学校の歯科検診でも虫歯の子供が少ないとのことである。
	寿司店	同業者のうち1店が5月中旬に閉店した。ここ数年で、11店舗あった同業者が4店舗になってしまった。厳しい状況である。
	都市型ホテル	同業者の見積書を見ると、以前と比べディスカウントが目立ってきている。
	旅行代理店	ガソリン価格の高騰で利益が減少している職種が増え続けており、景気回復は危機的な状況にある。早急に対応が必要である。
	タクシー運転手	先行きの景気が不安である。
	タクシー運転手	燃料価格の高騰はタクシーにとって吉とでるか凶とでるか気になる。
	タクシー運転手	筑波山への客は一時期より減少していると思われる。
	タクシー運転手	地域における活気、活力を体感することができない。客との会話にも嘆き節が多い。
	ゴルフ場	客単価が平日利用者に限り低下している。これは個人支払者が多いためでもあるが、消費傾向に翳りが見える。
	ゴルフ場	全体的にガソリン価格の値上げや食料品の値上げなど重い感じの話が多い。来場者も交通費が掛かるなどの話をよくしている。
	ゲームセンター	家庭用ゲーム機の普及や、ガソリン等諸物価の高騰により客足が遠のいている。
	レジャー施設	つくばエクスプレス効果で増加した筑波山への観光客の流れが全く止まっている。
	美容室	ここ1～2年で商業地は増加したものの、テナント店などは入れ替わりが早く消費者の信用を落としている。食品関係の事件が外食産業に対しての消費者の不安の原因となっている。
美容室	空店舗がかなり目立つ。また、土浦駅ビルが平成20年7月中旬から平成21年3月まで全館改修工事のため閉店となる。非常に物寂しい状況である。地域の活性化を図るため「第1回土浦まちなか元気市」が開催され、カレーの街としてPRするメニューや地元の特産品の販売、ダンス、アトラクションなどで賑わった。	
建築設計事務所	同業者の話からすると、住宅メーカーからの受注が多くなってきたようである。	

(4) 県南地域

企業 関連	農業関係者	農業では、肥料の価格が1.5倍から2倍となったことに伴い生産コストを如何に少なくするかが問題となっている。米、野菜は生産コストの上昇分を販売額に反映させることが難しいので、「今後も農業を続けていくかどうかについて考えている」と口にする方が以前より多くなった気がする。
	製造業（食料品）	つくばエクスプレスの研究学園駅を中心に開発が進んでいるが、現在はまだ開発途中であるため、地域の経済効果が今のところできていない。筑波山への観光客は数年前よりも増加してはいるが、財布のヒモは堅いようである。
	製造業（食料品）	中国から輸入された食品原料を多く扱っているが、今年2月の中国製冷凍ギョーザの事件以降、中国側の輸出規制が強化された。この規制が長期に渡るようであれば影響も大きくなる。今後の対中国との輸出入関係の動向に注目している。
	製造業（食料品）	テナントビルの空きが増えている。また、個人商店の廃業も見られる。
	製造業（印刷・同関連業）	材料費等の値上り分を販売価格に転嫁するにはどうしたらいいかを検討しているが、競争が激しいのでなかなか難しい。
	製造業（窯業・土石製品）	ガソリンの値上げがきつい。当社は従業員の自動車通勤が多いので通勤費用にも大きな影響を与えている。他社では通勤手当の非課税範囲からの引き上げも検討しているようである。
	製造業（非鉄金属）	協力工場がここ2年で3社ほど自主廃業となった。今後ますます加速されそうである。
	建設業	景気は予想以上の深刻さとなっている。取引先の上場企業数社では多少の動きはあるものの、各社とも予算の関係があるとのことで、3、4か月先の望みは非常に薄い。発注の声がなかなか掛かってこない。
企業 関連	建設業（設備工事業）	建設関係の仕事がなく、大工、電気工事店、サッシ店、畳店等がどうしていけばよいか分からず、困った話ばかりである。大工はリフォームを中心に営業しているが、見積り依頼は多いもののハウスメーカーに決まってしまう、受注が得られない。電気工事店は忙しい工事店に働きに行ったりしているが短期間なので大変である。また、家族経営者のなかには畑仕事を行ったりしているところもある。材木問屋では、社長が早朝別の仕事をしているところや、材木を加工して犬小屋やプランター等を作り事務所脇で販売しているところもある。どちらも「今年頑張れば来年は」と話している。
	建設業	公共事業費の削減により、特に土木工事の受注が厳しい状況にあると思われる。
	建設業（設備工事業）	指定給水装置工事事業者制度の規制緩和により業者は約5倍に増加したが、一般の客足は減少している。また、規制緩和により地元以外の業者でも指定業者となれるようになったが、地元以外の業者は給水区域に常時在住していないため、緊急漏水時等に地元業者にしわ寄せがきて、地元業者の経費が増大するおそれがあると思われる。
	運輸業（倉庫業）	受入貨物にもよるが、中国関連は北京オリンピックの前に入庫が多くなると予想される。
	金融業	外貨預金に興味を示す人が多くなった。
雇用 関連	不動産業	携帯電話（QRコード）による問合せが増加して店頭来客が減少している。公的機関による分譲が低価格で供給され、民間を圧迫している。大型の取引が減少し、客単価が低下している。
	求人広告	大型ショッピングセンターの進出や計画等があり、個人店の求人募集への応募が少なくなっており、時給を上げて人材確保をしている。最近、企業から、求人広告に応募してきた人について「質が悪い」「礼儀を知らない」「常識がない」と言われることが多いが、企業への定着率が悪いからではないかと思う。景気は悪いが、個人店やチェーン店の新装オープンや新規オープンの予定もある。
	公共職業安定所	土浦駅ビルの閉店が予定されており、ドーナツ化現象の1つと思われる。
	学校就業関係者	新規の求人企業からの問い合わせが3か月前に比べ増えている。また、昨年度と比べて求人が増えてきているため。
	雇用相談員	中国四川省の大地震により部品の入荷がなく、仕事が停滞していると聞く。他国の災害が自国の企業に影響を与えるという、経済のグローバル化を再認識する。

(5) 県西地域

分野	業種・職種	その他の意見
家 計 関 連	商店街代表者	安心、安全の食品を販売しているが、こだわった高い価格の品は売れない。
	スーパー	低価格のプライベートブランド商品の支持が徐々に上昇してきている。また、均一セール等の購入しやすい企画が好評である。
	スーパー	当社の本店には高齢者が多いが、そこでは後期高齢者医療制度に対する不満の声が多い。かなり不満の方々が增加している。
	衣料品販売店	中国製の食品への不信があるが、衣料においても、中国製より日本製をアピールするアイテムが増加しており、客からも指示されている。
	家電販売店	サブプライムローン問題、株価下落、ガソリンその他衣食住にかかる諸物価の値上げで娯乐的な部分への財布の紐が固くなってきている。
	自動車販売店	店舗がどんどん淘汰されている。今後はますます大変である。
	農産物直売所	ガソリン価格の値上げによって、余暇はもとより買物も減らしている方もいるそうである。
	ガソリンスタンド	普通車から軽自動車に乗り換える客が多くなってきた。土・日・祭日の来店数が減少している。
	和食食堂	自分自身を含め節約に努力している。
	和食食堂	ガソリン価格の値上げで何もかもが値上がりしているの、人の動きが少ないような気がする。
	和食レストラン、割烹	バブルが弾けたときよりも、人材不足のときよりも状況は厳しいと思う。選ばれる店でないとい営業が難しくなってくると思う。
	多目的ホール	季節的な企画、総会シーズンであるため動きはあるが、全体的に客数、客単価に減少が見られる。
	旅行代理店	最近、首都高速はかなり空いている気がする。やはりガソリン高騰の影響で、マイカーの使用を控えているせいだろうか。
	タクシー運転手	金曜日、土曜日以外の夜の街に人影があまり見られない。アメリカのサブプライムローン問題は、やや沈静化の方向に向かっているが、依然として高騰している原油価格が企業の業績に悪影響を与えていると思われる。
	タクシー運転手	乗客から、いろいろな面での不安や不満、あきらめの声等を聞くが、その中の1つに、4月のガソリン税暫定税率廃止にともなうガソリン価格の値下りとわずか1ヶ月での暫定税率復活による再値上げとその後のガソリン価格の値上げについて、「石油業界としては値上げしなとやっつけていけないという事情はあるのだろうが、『値上げするタイミングは今だ』とばかりに大幅な連続しての値上げには納得がいかない。4月の値下げは、その後値上げするためのジャンプ台だったのか。」というような話があった。また、政治全体について信頼できないという内容の話が多い。
	ドライブイン	駐車中の車（トラック）でエンジンをかけたままの台数がやや減ったような感じがする。
	ゴルフ場	円高の株式市場への影響によりゴルフ会員権販売が大きなダメージを受けている。ゴルフ会員権業者の倒産（店じまい）も相次いでいるようである。
	レジャー施設	ガソリンの値上げで、レジャー施設の利用客が減少しているように感じる。
	理・美容店	最近、外食や無駄な買物をしなくなっている方が増えているようである。通勤も軽自動車や自転車が多いと聞いている。
	クリーニング店	石油関係の物が値上がりして数年前に比べて景気がかなり厳しい。
建築設計事務所	原油高騰は多方面に大きな影響を及ぼしているところだが、道交法の改正による罰則の強化等も影響してか、飲食店への客足が減ってきているらしい。地場で在来工法を受け継いで請負をしてきた大工が、ハウスメーカーや建売業者におされ請負が出来なくなってきており、サラリー大工として会社に入る人が増えてきている。七つ道具を使う本来の大工の技術は不要になり、コストダウンの合理化をするための影響が強いと思われる。	
企 業 関 連	農業関係者	物価高騰により、物を大切にしようになってきており、ある意味では良い方向に向いているとも思える。現在は以前に比べて贅沢になっており、それを見直す時期かもしれないと思う。
	製造業（食料品）	ターミナル駅前のスーパーマーケットが閉店するらしい。平成20年1月に開業したばかりだったが半年で撤退である。
	製造業（印刷・同関連業）	金属関係の古物商等資源関連の業種は好景気が続いているが、地場の建設業や商店関係はジリ貧が続いている。地方でも「勝ち組」と「負け組」がはっきりとしつつある。多くの国民が中流意識を持っていた時代は、安心、安全で、いろいろな面で安定していた。50～60年製造業として頑張ってきた地元の会社が廃業したが、跡地は立地が良いため、貸しマンションや駐車場として有効利用するようである。しかし、駅から離れた立地の良くない場所では有効利用するとしてもどうにもならない。一生懸命汗を流して頑張ればどうにかになった時代は終わってしまったのだろうか。
	製造業（印刷・同関連業）	材料、燃料の値上げが続き価格が下がり続ける。個別の企業努力が限界にきているようにみえる。
	製造業（化学工業）	業界により景気の波にバラつきがある。昨年まで牽引していた自動車、液晶関連の動向がいま一つなのかもしれない。
	製造業（窯業・土石製品）	原油高で騒がれているように消費が進まない感じがする。
製造業（窯業・土石製品）	先日、異業種の倫理法人会仲間のところへ勉強がてら訪問したが、思いのほか客の出入りが多く繁盛しているように見受けられた。その理由は、店内、作業場ともに整理、整頓が行き届いており、客への接遇が見ているこちらが気分がよくなるような対応していたからだと思う。やはり、整理整頓、挨拶が繁盛の源である。	

(5) 県西地域

企 業 関 連	製造業（金属製品）	業界により業況はかなり差があると思われる。弊社周辺では移動体通信部門と自動車関連は活発であるが、設備関係は動きが悪い。
	製造業（一般機械器具）	今年は、自動車関係の会社でも厳しい話をしている。増産の予定を立てたが、収益はどうかなどの話である。
	建設業	ガソリン高騰、少子高齢化の対策や後期高齢者問題で不安で、消費も縮小されつつある。
	金融業	株価の下落変動や原材料の高騰により、特に富裕層への影響が大きく、今後も消費意欲が停滞すると思われる。
	不動産業	急激なマンション建設ラッシュで売れ残り物件が多数でている。
	製造業（印刷・同関連業）	消費者（特に若い人達）はネットショップやショッピングモールで買物をする事が多く、地元で購入することが少なくなっていると思う。私達も日常の食品はスーパーで購入するが、通販でその地域の食品や、地ビール、地酒等を購入している。このように、消費者の購買動向が大きく変化している状況を考え、どう対処すべきか頭を痛めている。当社も遅ればせながら印刷通販を始めたところである。
	サービス業（コンサルタント業）	運送業、建設業関係は本当にひどく、運送業は燃料費の高騰によるコストアップを収入に転嫁できないのが現状であり、経営を圧迫している。また、建築関係では末端の職人の中には、全く仕事がない人もいる。
雇 用 関 連	求人広告	運送業界では物が動いていないとのこと。かなり厳しいと聞いている。
	学校就業関係者	当校で購入しているものでは、鋼材以外にも産業用ガス、溶接棒など多くの産業資材が原油高の影響を受けている。